

第2回野洲市自主防災組織リーダー研修会



【防災のキーワード】

- ◆『無理せず、低空飛行(墜落せず)で防災活動を継続する』……………
- ◆『防災を特別なことにせず、日々の生活に溶け込ませる』……………
- ◆『いつでも当たり前のことが出来るように取り組む』……………
- ◆『危機意識を持ち続ける努力をする』(忘れては、気づくの反復を)……
- ◆『命を守るための行動⇒素振りをする(イメージして行動して確認する)……



日時 令和5年7月16日(日)9時00分～12時00分
会場 野洲市辻町488 野洲市総合防災センター・東消防署

目次

◇ 実施要項 (3 ページ)	1
◇ 避難所運営ゲームの関連資料 (2 ページ)	4
◇ 防災マップの内容 (9 ページ)	6
◇ 避難所の区分に係る資料 (6 ページ)	15
◇ 防災関係の参考資料 (15 ページ)	21

(野洲市の水害被害 H25 年 9 月台風 28 号関係、
風水害対応に係るタイムライン(例)、地震対応のマニュアル(例)、
被害状況・安否確認用紙(例)、自主防災組織の防災資機材一覧表、
大津版タイムライン、危機管理ハンドブックの一部抜粋)

◇ 自治会防災活動の紹介(6 ページ)	36
◇ 防災に係る参考資料 (6 ページ)	42

(新聞掲載記事、市内の 4 自治会)

(災害用トイレ、防災グッズ)

★ 別冊参考資料 (滋賀県知事公室防災危機管理局より提供)

◇ しがマイ・タイムラインをつくろう。

◇ しが防災プラスワン

第2回野洲市自主防災組織リーダー研修会実施要項

1 目的

一般財団法人消防防災科学センターより講師をお招きし、避難所運営ゲーム(HUG)【風水害版】を通して、参加者がより防災・減災への関心を高めていただき、自主防災組織におけるリーダーとして地域の防災力の更なる向上につなげていただくことを目的として開催するものです。

2 日時

令和5年7月16日(日) 9時00分～12時00分(受付8時30分～)

3 場所

野洲市辻町488番地 野洲市総合防災センター 2階研修室

4 班分け

別紙のとおり

※各班に市職員、東消防署員及び野洲市消防団員も加わります。

5 当日のスケジュール

時間	内容	場所
8:30～9:00	受付	2階研修室出入口
9:00～9:05	開会 挨拶 栢本市長	2階研修室
9:05～9:45	演習の説明 自己紹介	
9:45～11:15	研修(90分) 避難所運営ゲーム(HUG)【風水害版】 (講師) 一般財団法人消防防災科学センター 藪本 英彦氏	学区単位でグループに分かれて実施
11:15～11:55	発表、意見交換、講評、まとめ(40分)	
11:55～12:00	アンケート記入 閉会	

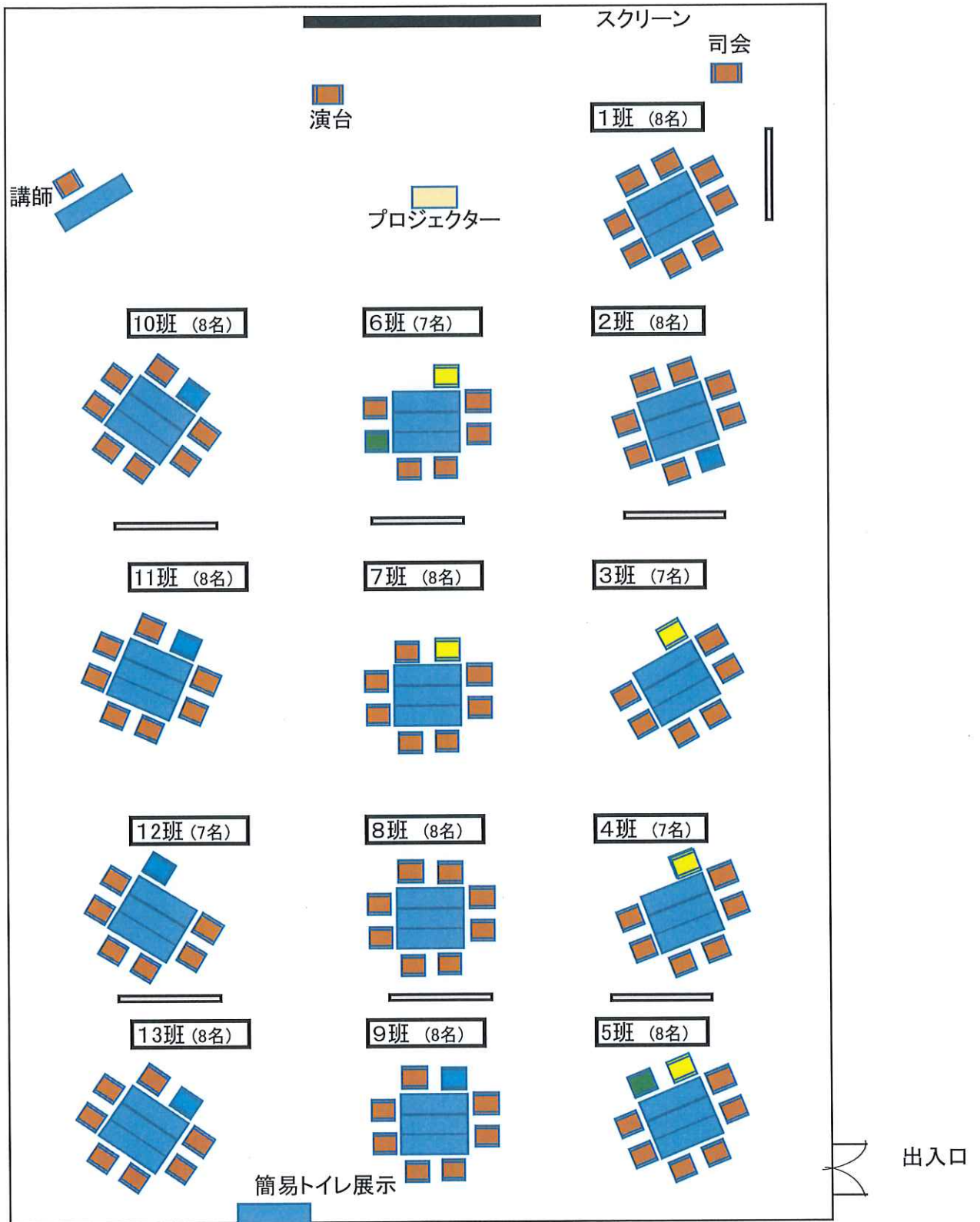
第2回野洲市自主防災組織等リーダー研修会 班割表

自治会			班別	自治会			班別	
野 洲 学 区	1	野洲	1班 (8名)	祇 王 学 区	50	上町	8班 (8名)	
	2	四ツ家			51	下町		
	3	大畑			52	江部		
	4	万葉台			53	中北		
	5	行畑			54	北		
	6	小篠原東部			55	上屋		
	7	小篠原西部第一			56	新上屋		
	8	小篠原西部第二			57	辻町		
	9	桜生	58		富波甲	9班 (7名)		
	10	駅前	59		富波野			
	11	駅前東	60		富波松陽台			
	12	和田	61		富波乙			
	13	青葉台	62		野洲の里			
	14	レオ	63		見星寺ルガガッ			
	15	レックス	64		富波東			
	16	グラン・ブルー	3班 (6名)		篠 原 学 区	65	大篠原	10班 (7名)
	17	エスリード野洲第二 ※欠席				66	小堤	
	18	シャリエ野洲				67	入町	
北 野 学 区	19	市三宅	68	長島		11班 (7名)		
	20	駅前北 ※欠席	69	高木				
	21	五反田	70	小南				
	22	山田	71	篠原駅前				
	23	縄手	72	比江				
	24	樋ノ尻	73	小比江				
	25	稲辻	74	北比江				
	26	富波南	75	乙窪				
	27	久野部	76	錦の里 ※欠席				
	28	久野部東	77	吉地		12班 (6名)		
	29	竹生	78	西河原				
30	五之里	79	比留田					
31	富波湖州平	80	木部					
32	第二湖州平	81	虫生					
33	富王美谷	82	八夫					
三 上 学 区	34	野洲平	兵 主 学 区	83	野田	13班 (7名)		
	35	アルティプラザ野洲 ※欠席		84	五条			
	36	ヴィルヌーブ野洲		85	安治			
	37	竹ヶ丘 ※欠席		86	須原			
	38	三上		87	下堤			
	39	七間場		88	堤			
	40	妙光寺		89	井口			
41	北 桜	90	六条					
42	南 桜	91	吉川					
43	近江富士第一区	7班 (7名)	92	菖蒲				
44	近江富士第二区							
45	近江富士第三区							
46	近江富士第四区							
47	近江富士第五区							
48	近江富士第六区							
49	近江富士第七区							

参加者数 87名

第2回自主防災組織等リーダー研修会の会場図

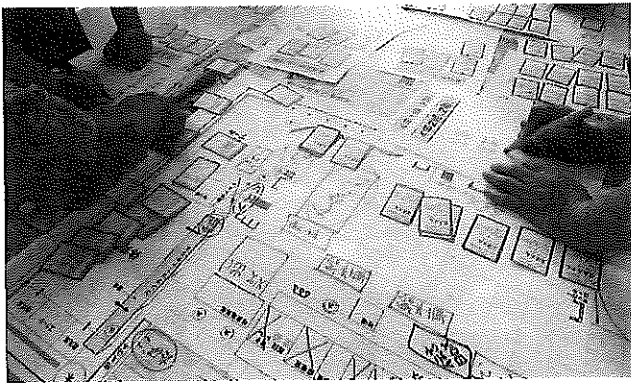
【2階研修室】



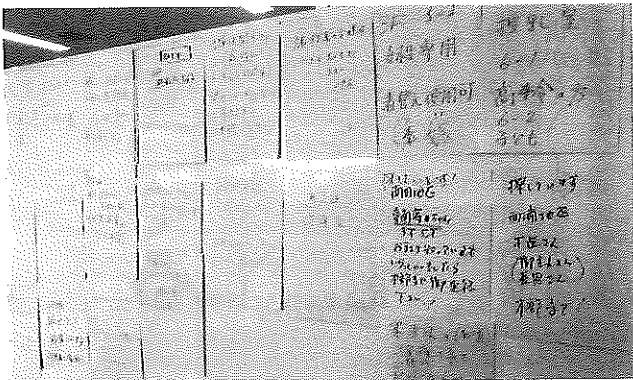
自主防災組織関係者
 市職員
 東署職員
 消防団員
 合計 100名



避難所運営ゲーム「HUG」の貸出しセットには、カード4セットやマニュアルなどが入っている



避難所となる体育館や学校の敷地に見立てた図面に、避難者のカードを配置していく



掲示板は、周知や情報共有の場として重要。絵による表現も有効

これらを解決するため、静岡県ではHUGの改編申請を受け付けています。多くの自治体や団体がそれぞれの地域の特色や実情に合わせて作成しており、HUGの有効性が広く認められ、活用いただけると感じます。新たなカードを追加したり、表現をやさしくしたりすることで、より幅広い方に体験してもらうことも可能になります。

感染症の拡大により、防災訓練をはじめとしてさまざまな訓練が縮小されるなどの影響がありました。が、「今、災害が起こったら」と考えると、防災の取り組みは止まってはならないと感じます。より多くの方に災害対策を自分事として捉えていただけるよう、引き続きHUG等の災害図上訓練を用いた防災啓発を行ってまいります。

です。

また、HUGはグループで演習を行うという特徴から、防災に関心を持っていただくと同時に、参加者同士の親交を深められるという点で多くの団体が研修等に導入しています。自主防災組織や消防団といった防災に関わりのある方をはじめ、看護学校や高校・大学の防災教育、さまざまな企業の社員研修にも定期的な導入実績があります。防災関連業務に従事している方にとっては、避難所運営の手順を具体的にイメージすることができ、役割分担の明確化やマニュアルのブラッシュアップに活用されています。一方、学生や企業の方々にとっては、住民主体の運営を基本とする避難所において率先して行動できるよう、演習を通してイメージを膨らませ、災害を自分事として理解することが期待されます。また、文字を拡大し

たり、使用するカードを減らしたりと工夫をすることで、障害のある方や特別支援学校の児童生徒にも体験してもらっています。

場所や状況に限らず、誰もがいつか・どこかで被災する可能性があります。例外なく全ての人にとって、HUGを通して避難所生活をイメージしておくことは「備え」の一つとして有効であると考えます。そこで、少しでも避難所運営について理解を深めてもらえるよう、静岡県地震防災センターでは一般の方向けにHUG体験会を実施しています。平成23年から延べ約1400人が参加し、「細やかな配慮と素早い判断が必要だと分かった」「多くの学びがあった」「実際にはさらに難しいだろうから、事前に備えておく必要があると思う」などの感想とともに高い評価をいただいております。

HUGの多様化と発展

HUGの開発から15年が経過した今、課題となっているのが地域の実情との乖離です。HUGで使用する250枚のカードでは全てを想定することができません。さらに、地域によって被害の状況や生活環境などが異なります。災害時要配慮者が多い場合は細かな配慮が必要になりますが、従来のHUGは地震災害を想定していますが、風水害や雪害によって避難所が開設される場合もあります。近年の感染症拡大防止措置を取り入れると、運営方法はさらに大きく変わってきます。

避難所運営を知り、備え、行動する

— 避難所運営ゲーム「HUG」で自分事にして —



静岡県危機管理部危機情報課防災啓発班
(静岡県地震防災センター駐在) 主事

● 室屋 南月

住民主体の避難所運営が基本

◆◆◆
もし今、災害が起こり、避難所に行くことになったら、その避難所がどのように運営されるのか、他人とどのように共同生活を送るのか、想像することはできませんか。

静岡県では、避難所は自主防災組織を中心とした住民主体の運営を基本として、避難所運営マニュアルの整備を進めてきました。混乱状態のなかでも、避難所に身を寄せた住民が安心して過ごすためには全員で協力して運営することが重要です。しかし、平時に実際の避難所生活やその運営方法をイメージすることは容易ではありません。そこで、年齢や属性を問わず、多くの人が図上で実践的な避難所運営の在り方を学ぶことができる手法として、HUGが開発されました。

◆◆◆ 答えのない課題と向き合う

HUGとは「避難所運営ゲーム」の頭文字を取ったもので、さまざまな事情を持つ避難者に配慮しながら避難所の適切な運営を考える災害図上訓練です。カードには避難者カードとイベントカードがあり、避難者カードには名前や居住地域、被災状況、家族構成、持病や個性などが記載されています。また、イベントカードには物資の到着や避難者からの要望、「マスコミが取材を希望している」といった避難所で想定される出来事が記載されています。グループごとに避難者の配置や出来事への対応を検討し、避難所運営の現状や課題を学んでいきます。

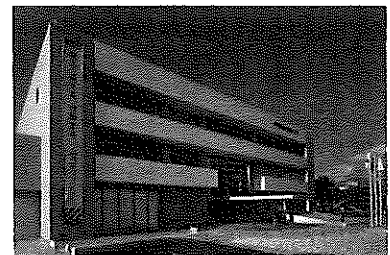
条件が異なれば最適な対応も変わるため、HUGに正解はありません。また、ゲーム中の出来事が確実に起こるとは限らないので、全てをマニュアル化するには限界があります。演習前には発想が及ばなかったことや必要な配慮に気づいていなかったことなどを知り、視野を広げられることがHUGの最も有益な点だと考えます。また、グループに分かれて演習を行うことで、他のグループ

の考え方やどのような優先順位で対応したのかなどを比較でき、より多くの気づきを得ることができそうです。

◆◆◆
ゲーム中の判断や考え方には参加者のバックグラウンドや価値観が反映されます。そのため、さまざまな年齢や性別、職業の参加者でグループを構成した方が、多種多様な立場から意見が出されて活発な議論が期待できるでしょう。グループのメンバーが変わると結果も変わるため、内容が同じでも繰り返し体験する価値は十分にあると感じます。

◆◆◆ 防災教育の一助としての活用

◆◆◆
これまでに県内外を問わず、多くの方にHUGを体験していただきました。静岡県や市町でHUGセットの貸し出しを行っているほか、県内の出前講座へ講師を派遣し、HUGの普及に取り組ん



静岡県地震防災センター
Shizuoka Prefectural Earthquake Disaster Prevention Center

〒420-0042

静岡市葵区駒形通5-9-1

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/index.html>

地震防災センターの案内

風水害に備えて

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

排水溝

- 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか

窓

- 窓枠のがたつきはありませんか
- 雨戸のがたつきはありませんか

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナはありませんか
- トタンがめくれていますか
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていますか

板塀

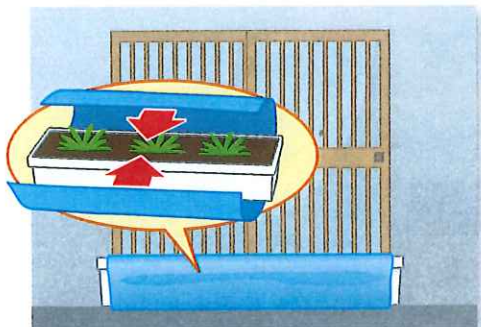
- 板塀に腐りや浮きはありませんか
- 板塀に支柱はありますか

その他

- ガスボンベ(プロパンガス等)は固定されていますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

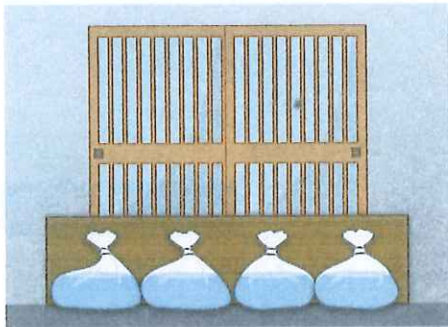
家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①
プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方

家庭で使用しているゴミ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

風が強いとき、大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、野州市からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき



室内

- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板でふさいだり、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。



屋外

- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。



湖岸

- 湖への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。
- 強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

大雨のとき



室内

- 豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。



車の運転中

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
- 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。



川辺・水路付近

- 急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- 今いる場所で雨が降ってなくても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐに避難してください。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道で排水しきれなくなるなどにより起こる氾濫（内水氾濫）と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫（外水氾濫）があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所などまで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。



風水害に備えて

雨の強さ、降り方と災害の危険性など

次の表は、雨の強さと降り方の目安、それに伴う災害の危険性を示したものです。普段から雨の様子に注意し、警報や避難勧告が出る前でも、危険と判断すれば自主的に避難することが大切です。

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量と予報用語	10~20mm未満	20~30mm未満	30~50mm未満	50~80mm未満	80mm以上
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような 圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返りで足もとがぬれる。	●傘をさしてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くとときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。

水位の名称等	避難情報等	内容	日野川			野洲川		童子川
			仁保橋	桐原橋	安吉橋	野洲	河野川公園	一本橋
氾濫危険水位	警戒レベル4相当 避難指示の目安	氾濫するおそれのある水位	—	5.10	4.10	4.80	—	—
避難判断水位	警戒レベル3相当 高齢者等避難の目安	住民の避難の目安のひとつとなる水位	—	3.80	3.40	4.30	—	—
氾濫注意水位		水防団などが、水害の発生に備えて出動の目安とする水位	0.93	3.00	2.70	3.50	2.00	1.50
水防団待機水位		水防団などが、水防活動に入る準備を行う目安とする水位	-0.17	1.80	1.80	2.50	1.50	0.65
ふだんの水位								

単位:m

大雨時の情報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。

※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報

災害が発生するおそれがある

大雨

大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水

大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨・洪水警報

重大な災害が発生するおそれがある

大雨

大雨により、**重大な浸水災害や重大な土砂災害**などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水

大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による**重大な災害**が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨特別警報

「警報」よりも、はるかに高い危険度

大雨

台風や集中豪雨により**数十年に一度の降雨量**となる大雨が予想されるときに発表。

「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じた時はすぐに安全な場所へ避難しましょう。

土砂災害警戒情報とは



土砂災害警戒情報とは、大雨警報の発表中に、土砂災害発生危険度が高まったとき、滋賀県と彦根地方気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、市からの情報を入手して避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報などにも十分注意しながら、避難行動をとってください。

滋賀県 土木防災情報システム

<https://shiga-bousai.jp/>

滋賀県 防災

検索



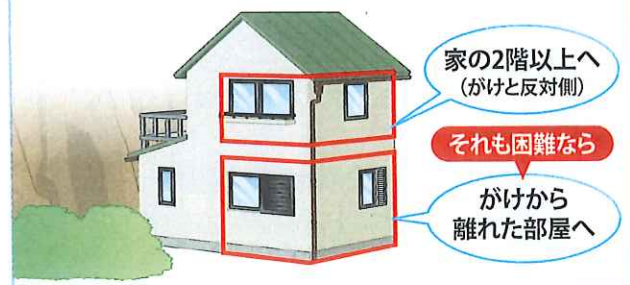
▲土砂災害の危険度情報は、滋賀県がインターネットで公開している「滋賀県土木防災情報システム」で確認することができます。

※上記URLか、右のQRコードからご確認ください。

土砂災害から身を守るために

災害では早めに避難することが大事ですが、どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（がけから離れた部屋や2階など）に避難しましょう。

避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…



3つのポイント

住んでいる場所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認

雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

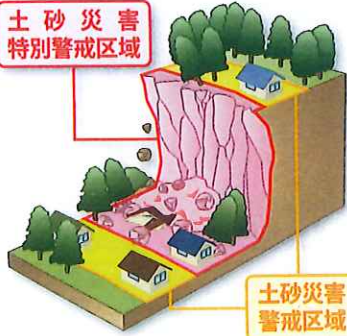
危険を感じたら早めに避難

風水害に備えて

土砂災害の種類

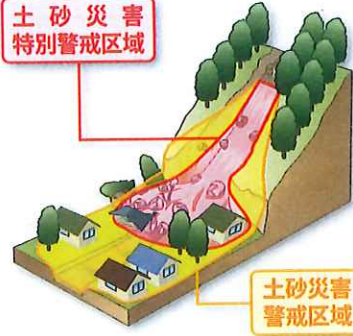
土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。土砂災害から身を守るために、ハザードマップで自分が住んでいる場所の周辺で土砂災害発生の可能性がある場所を確認しましょう。

急傾斜地の崩壊



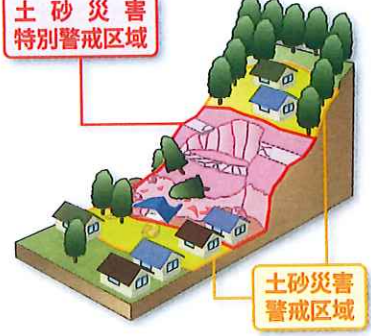
- 雨で地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちる。
- 前ぶれもなく突然起こることが多く、スピードも速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人が多く死者の割合も高くなる。
- 地震が原因で起きることもある。

土石流



- 大量の土・石・砂などが集中豪雨などの大量の水と混じりあって、津波のように出てくる。
- 流れの先端部に大きな石があることが多いため、破壊力も大きくスピードも速いので悲惨な被害を及ぼす。

地すべり



- 粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がそっくりズルズル動き出す。
- 地割れで田畑や家が壊されたり、押し出された土砂や地面の移動のために、道路や建物が広い範囲で被害を受ける。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生するおそれがあり、発生した場合、住民に危害が生じるおそれがある区域。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域。

避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



状況により、すばやく避難しましょう

避難の準備を心がけ、市からの指示があれば、すばやく避難しましょう。



外出中の家族には連絡メモを残そう

「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとうい良いでしょう。



防災メモを持とう

特に高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



集団で避難しましょう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



浸水時、自動車での避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。



安全なルートで避難しましょう

川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



避難所では係の人の指示に従いましょう

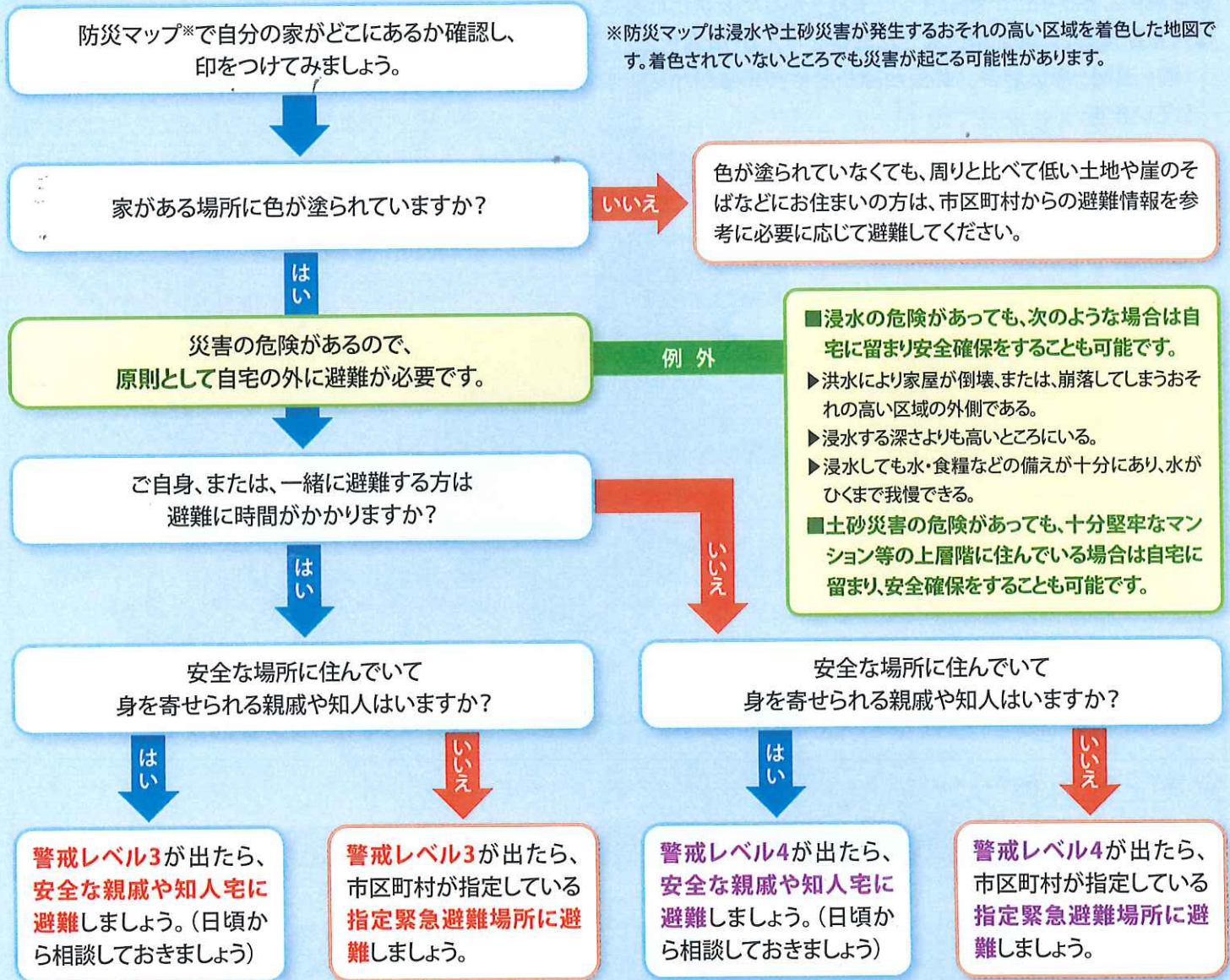
指定避難所に着いたら、住所、氏名などを報告しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

平時に
確認

「避難行動判定フロー」を「野洲市防災マップ」と合わせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件などを考慮した上で、とるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。



水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



災害に備えて

地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、野洲市をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。

自助

自分の命は自分で守る



共助

自分たちの地域は自分たちで守る



公助

市や県、国、防災関係機関が住民等を援助する



住民同士が協力して地域の防災力を高めよう

警戒レベルと避難情報

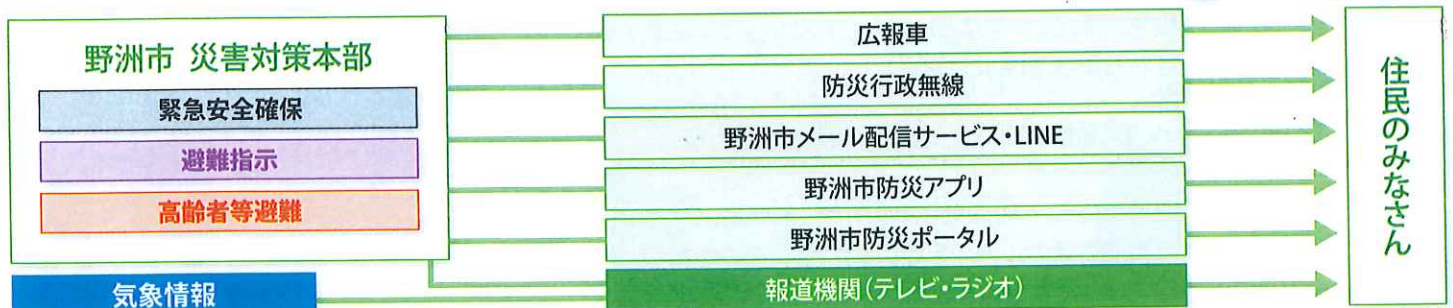
避難情報等や防災気象情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルに分類されています。また、令和3年の出水期頃から、以下の避難情報等の名称で提供されることになりました。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	防災気象情報 (気象庁が発表)	避難情報等 (野洲市が発令)
警戒レベル5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	大雨特別警報	緊急安全確保※1
警戒レベル4までに必ず避難!				
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	土砂災害警戒情報	避難指示
警戒レベル3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	大雨警報	高齢者等避難
警戒レベル2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報	—
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	—

※1:災害の発生を把握できていない場合もあるため、警戒レベル5「緊急安全確保」は必ず発令されるものではありませんのでご注意ください。※2:高齢者等以外の方も危険を感じたら自主的に避難してください。今後、国や気象庁により変更される可能性がありますので、最新の情報を確認してください。

情報の伝達経路

市からの避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。積極的に情報を収集し、早めの避難を心がけましょう。



状況に応じて早めの避難を



雨に注意しましょう

土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険だと思ったら、早めに避難しましょう。1時間に20mm以上、または降り始めから100mm以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



避難指示などには速やかに従いましょう

市から避難指示などの避難情報が発令されたら、速やかに従いましょう。



テレビ、ラジオ、スマホ、アプリ、SNSから情報収集

気象予報などさまざまな情報に気を配り、近所の方たちとも連絡をとりあひましょう。避難の準備も忘れずに行ってください。



声のかけ合いと助け合い

子どもや高齢者の避難には誰かの手助けが必要です。常に声をかけ合い、助け合う地域の輪、人の和で、みんなの安全を守りましょう。

自然災害に備えて

災害時に最も頼りになるのは家族です。家族そろって防災について話し合ひましょう。

①家族一人ひとりの役割分担

火の始末の係、お年寄りや乳児などの安全確保の係、非常持ち出し品の係など、家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。

②家族間の連絡方法

災害はいつ起こるかわかりません。災害用の居場所を伝える方法を考えましょう(災害用伝言ダイヤルの活用など)。

③避難所の確認

自宅、学校、勤務先から避難所への最も安全な経路と、家族全員が落ち合える場所を決めましょう。

④初期消火の方法を覚えましょう

消火器の置き場所や使い方を確認しましょう。

⑤家の内外の安全チェック

家屋の耐震化、家具などの転倒防止策、家の中や外の整理整頓をしましょう。

⑥非常持ち出し品・備蓄品のチェック

非常持ち出し品・備蓄品の食料や飲料水は賞味(消費)期限があります。定期的に確認しましょう。

⑦家庭内備蓄品は「ローリングストック」で

普段の食事に利用する食材を多めに常備して、製造日の古いものから消費し、消費した分を新しく買い足し、いざというときのために備える方法です。



非常持ち出し品を常備しておきましょう

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルク、哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合) 日頃から、3日分の食料と飲料水を、非常備蓄品として常備しておきましょう。	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳(処方箋の控など) <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> 体温計、消毒液	<input type="checkbox"/> 現金(小銭も必要) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 免許証など(身分を証明するもの)
衣類など	日用品など	
<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池)	<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品

避難施設について

指定避難所・指定緊急避難場所一覧


- 万一の災害発生時には、災害の種類や被災状況に応じて避難所を開設します。
- 指定避難所の開設や閉鎖の状況については、市のホームページや防災行政無線、メール配信サービスなどによりお知らせします。この他にもテレビなどでも情報提供します。
- 指定避難所とは、災害が発生し、自宅の倒壊などにより帰ることができなくなった場合に、一時的に避難生活を行う施設です。
- 指定緊急避難場所とは、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、その危険から緊急的に逃れるための避難場所です。地震や洪水など、災害の種類ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設や場所を指定しています。各種災害に対し、避難可能な施設に「○」を示しています。市が安全性を確認するまで使用不可である施設等に「×」を示しています。

No.	学校区	名称	電話番号	所在地	指定避難所	指定緊急避難場所			
						地震	洪水	土砂	内水
1	野洲	野洲小学校	587-0062	小篠原1147	○	○	×	○	×
2		野洲中学校	587-0341	小篠原510	○	○	○	×	○
3		野洲幼稚園	587-1265	小篠原2142-25	○	○	×	○	×
4		ゆきはたこども園	588-3690	行畑1-2-25	○	○	×	○	×
5		野洲第三保育園	586-0140	小篠原1977-1	○	○	×	○	×
6		野洲高等学校	587-0059	行畑2-9-1	○	○	×	○	×
7		コミュニティセンターやす	586-3864	小篠原2142	○	○	×	○	×
8		野洲市人権センター	587-4533	小篠原1780	○	○	×	○	×
9		さくらばさまこども園	588-0295	小篠原200	○	○	×	○	×
10		野洲川ふれあい広場	—	野洲地先	—	○	×	○	×
※1		守山市立吉身小学校	583-2386	守山市吉身3-2-26	○	○	○	○	○
11	三上	三上小学校	587-0049	三上111	○	○	×	○	×
12		三上こども園	588-2672	三上134	○	○	×	○	×
13		コミュニティセンターみかみ	586-5234	三上828	○	○	×	○	×
14		野洲川河川公園	—	三上2224	—	○	×	○	×
15	祇王	祇王小学校	587-0129	上屋1169	○	○	○	○	○
16		野洲北中学校	587-3693	永原1690	○	○	○	○	○
17		祇王幼稚園	588-2737	永原474	○	○	○	○	○
18		コミュニティセンターぎおう	586-3200	永原463	○	○	○	○	○
19		総合体育館	587-3477	富波甲1339	○	○	×	○	○
20	篠原	篠原小学校	587-0179	大篠原1414	○	○	○	○	×
21		篠原こども園	588-4907	大篠原1414-2	○	○	○	○	○
22		コミュニティセンターしのはら	587-1444	大篠原4024-2	○	○	○	○	×
23	野洲養護学校	586-6850	小南588	○	○	×	○	×	
24	北野	北野小学校	587-0058	市三宅240	○	○	×	○	×
25		北野幼稚園	587-5332	市三宅248	○	○	×	○	×
26		コミュニティセンターきたの	586-2450	市三宅313	○	○	×	○	○
27	中里	中主小学校	589-2012	西河原712	○	○	×	○	○
28		中主幼稚園	589-2232	吉地1120-1	○	○	×	○	○
29		市民交流センター	589-5000	北比江86	○	○	×	○	○
30		さざなみホール	589-3111	比留田3313-3	○	○	×	○	○
31		コミュニティセンターなかさと	589-4740	西河原2366-1	○	○	×	○	○
32	兵主	中主中学校	589-2036	六条377	○	○	×	○	○
33		中主B&G海洋センター	589-5100	六条460	○	○	×	○	○
34		吉川自治会館	589-3019	吉川3641	○	×	×	○	×
35		菖蒲自治会館	589-3921	菖蒲262-2	○	×	×	○	○
36		コミュニティセンターひょうず	589-4010	六条1509-1	○	○	×	○	×

避難所の区分（参考）

【危機管理課】

1. 一時避難場所（各自治会で設定）とは

災害時、又は災害の恐れがある場合、地域の皆さんが「指定緊急避難場所」「指定避難所」に避難する場合に、予め最初に集まる場所として、地域（自治会・自主防災組織等）で決めておく場所となります。  別紙一覧表参照

（例）自治会館・公園・グラウンド・大きな駐車場等

2. 市が設置する指定緊急避難場所、指定避難所、福祉避難所、自主避難所とは

① 指定緊急避難場所（市が指定）

指定緊急避難場所は、災害対策基本法に基づき、居住者等が災害から命を守るために緊急的に避難する施設又は場所として市が指定するものです。

② 指定避難所（市が指定）

指定避難所は、災害対策基本法に基づき、避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設として市が指定するものです。

※①②とも、野洲市地域防災計画に定める河川氾濫及び土砂災害に関する避難勧告等の発令の判断基準に基づき避難情報（避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急））の発令を行った際、避難先として「指定緊急避難場所」「指定避難所」を開設するものです。

①は市内で37箇所、②は市内で35箇所を指定していますが、35箇所は重複して指定しており、重複していないのは「野洲川ふれあい広場」「野洲川河川公園」となります。

③ 福祉避難所（市が指定）

災害発生時には、一般の避難所生活が困難な要配慮者*の方々のために、指定避難所内に区画された部屋を「福祉避難室」として設けます。さらに、福祉避難室では避難生活が困難な要配慮者がおられた場合は、福祉避難所（災害時福祉避難所の使用に関する協定を締結している社会福祉施設：市内4箇所を指定済）を開設するものです。

※要配慮者とは、「災害時において、高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する人」

④ 自主避難所（市が一時的に開設）

自主避難所は、災害時、あるいは災害が起きる恐れがある場合に、市が避難情報（高齢者等避難、避難指示）を発令する状況ではないものの、野洲市に台風が接近又は通過する恐れがある場合、又は長時間降り続く雨の影響等で洪水や土砂災害の発生が懸念される場合に気象状況等を勘案し、一時的に開設するものです。

避難に当っては、自分の判断で事前の避難を希望される人を対象とし、一時的に市が開設する避難所です。

(参考)

一時避難場所は、災害対策基本法に基づき安全性等の一定基準（要件）を満たす施設として、市が指定する指定緊急避難場所及び指定避難所ではなく、各自治会様が一時的に避難される場所（集合場所）の位置付けとなります。

◆地震災害時の例

◇一時避難場所を設定した場合

発災 → 避難開始 →

一時避難場所（各自治会設定） → 指定緊急避難場所又は指定避難所（市指定）

◎自治会の災害対策本部開設

- 安否確認、被害確認（役員以外は集団避難）
- 自主防災組織等（初動活動終了後集団避難）
 - ・被害情報収集
 - ・初期消火など災害時初動活動

◇マンションが自治会で一時避難場所が設定できない場合

◇市の指定緊急避難場所・指定避難所が近隣にあり自治会の一時避難場所の設定が不要な場合

発災 → 避難開始 →

自治会内での以下の行動 → 指定緊急避難場所又は指定避難所（市指定）

◎自治会の災害対策本部開設

- 安否確認、被害確認（役員以外は集団避難）
- 自主防災組織等（初動活動終了後集団避難）
 - ・被害情報収集
 - ・初期消火など災害時初動活動

◆その他

水害や既に周辺で災害が発生している場合の対応

※水害の場合早めの避難が重要です。ただし、既に避難経路が浸水しているなど、無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動（水平移動）ではなく、近隣のビルの高層階や自宅の2階以上といった高い場所への移動（**垂直避難**）を行い、救助を待つ判断も必要です。

※既に周辺で災害が発生している場合など、立退き避難がかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合は、「近隣の安全な場所」への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「屋内で安全確保」を行ってください。

自治会に係る一時避難場所一覧表

(令和2年3月31日現在)

学区	番号	自治会名	一時避難場所の名称
野洲学区	1	野洲	廃場地
	2	四ツ家	西ノ川原公園 第4ブロック避難場所 南町公園 第3・4ブロック避難場所 草の根広場 第2ブロック避難場所 四ツ谷自治会館 万葉台公園 第1ブロック避難場所
	3	大畑	設定なし
	4	万葉台	ゆきはたこども園
	5	行畑	自治会館前公園広場 中畑公園 三ノ坪公園 西ノ川原第二公園
	6	小篠原東部	アルプラザ野洲 駐車場
	7	小篠原西部第一	小篠原お池グラウンド
	8	小篠原西部第二	天理教琵琶分教会 広場
	9	桜生	桜生自治会館
	10	駅前	設定なし
	11	駅前東	シャルマンコーポ野洲Ⅱ 集会所及びその周辺
	12	和田	和田自治会館
	13	青葉台	青葉台児童公園
	14	レオ	和田公園(グラウンド)
	15	レックス	からから公園
	16	グラン・ブルー	設定なし
	17	エスリード野洲第二	野洲市人権センター
		18	シャリエ野洲
北野学区	19	市三宅	市三宅自治会館
	20	駅前北	駅前北自治会広場
	21	五反田	栄自治会館
	22	山田	栄自治会館
	23	縄手	縄手公園
	24	樋ノ尻	縄手公園
	25	稲辻	栄自治会館
	26	富波南	五反田公園
	27	久野部	久野部自治会館、円光寺境内
	28	久野部東	久野部東自治会大公園
	29	竹生	ポケットパーク
	30	五之里	五之里児童公園
	31	富波湖州平	富波湖州平自治会館 富波湖州平公園
	32	第二湖州平	第二湖州平自治会
	33	富士美台	十之坪公園
	34	野洲平	野洲平自治会館前公園
	35	アルティプラザ野洲	設定なし
36	ヴィルヌーブ野洲	設定なし	
37	竹ヶ丘	第一調整池西側公園	
三上学区	38	三上	山出会議所 コミセンみかみ 前田草の根広場 小中小路草の根広場 大中小路草の根広場
	39	七間場	七間場中央公園
	40	妙光寺	妙光寺公民館 公園
	41	北桜	北桜公民館 多聞寺本堂
	42	南桜	南桜自治会館 野蔵グラウンド
	43	近江富士第一区	さくら公園
	44	近江富士第二区	近江富士会館/集会場公園
	45	近江富士第三区	沢第3公園
	46	近江富士第四区	近江富士会館
	47	近江富士第五区	旧三上幼稚園跡地
	48	近江富士第六区	近江富士六区B公園
	49	近江富士第七区	近江富士第七区公園(2箇所)

学区	番号	自治会名	一時避難場所の名称		
祇王学区	50	上町	永原第一児童公園		
	51	下町	下町自治会館		
	52	江部	江部自治会館		
	53	中北	中北児童公園		
	54	北	北自治会館		
	55	上屋	上屋自治会館		
	56	新上屋	新上屋自治会館		
	57	辻町	辻町自治会館		
	58	富波甲	富波甲会館		
	59	富波野	富波野自治会館		
	60	富波松陽台	東公園		
			中央公園 富波甲1180-30付近 富波甲1180-61付近		
	61	富波乙	生和児童公園		
	62	野洲の里	野洲の里自治会館		
63	見星寺オレンジタウン	見星寺オレンジタウン公園			
64	富波東	富波東自治会館			
篠原学区	65	大篠原	大篠原自治会館 出町集会所 成橋集会所 街道集会所 東町集会所 西町集会所		
			66	小堤	小堤自治会館
			67	入町	入町自治会館
			68	長島	長島自治会館
			69	高木	高木自治会館
			70	小南	小南憩いの家 小南公園 小南自治会館・グラウンド
71	篠原駅前	篠原駅前自治会館			
中里学区	72	比江	比江自治会館前広場 比江松林公園(遊園地) ニチイケアセンター野洲前広場		
			73	小比江	小比江自治会館 会館前広場
					74
	75	乙窪	乙窪自治会館		
	76	錦の里	錦の里集会所、コミセンなかさと		
	77	吉地	吉地自治会館 第一公園 吉地神社 中央公園 中央児童公園		
			78	西河原	西河原自治会館
	79	比留田	比留田区民グラウンド		
	80	木部	木部自治会館 木部グラウンド		
	81	虫生	草の根広場(虫生グラウンド)		
82	八夫	八夫会館			
兵主学区	83	野田	野田自治会館、当館前グラウンド		
	84	五条	五条グラウンド、五条自治会館		
	85	安治	安治自治会館		
	86	須原	(風水害)須原自治会館 (震災時)須原児童公園		
			87	下堤	下堤自治会館前広場
	88	堤	堤グラウンド、堤地先		
	89	井口	井口自治会館 井口農村公園(ふれあい公園)		
			90	六条	六条自治会グラウンド
	91	吉川	吉川自治会館、草の根グラウンド		
	92	菖蒲	菖蒲自治会館		

※本件は、平成23年度及び令和元年度(令和2年3月31日現在)に市からの依頼により各自治会から届出されたものです。
 ※届出内容において、新規・変更(追加・廃止)が生じた場合は、所定の届出用紙にて危機管理課へ届出願います。
 ※看板については、義務ではありませんが設置を推奨しております。

別紙

令和 年 月 日

一時避難場所報告書

野洲市市民部危機管理課 宛

（自治会名）

（自治会長名）

印

以下のとおり一時避難場所を報告します。

一時避難場所の 名称及び住所	名称（ 住所（野洲市	） ）
【見取図】 ※お持ちの住宅案内図等の写しをご利用いただいても結構です。		

※複数の一時避難場所を設定された場合は、お手数ですが設定された一時避難場所毎に報告をお願いします。

自治会内の一時避難場所に係る看板の設置事例



※一時避難場所とは、災害時又は災害の恐れのある際に地域の皆さんが指定避難所に避難する場合に、予め最初に集まる場所として、市からの呼びかけに基づき各自治会において指定し、危機管理課に届出いただいております。
なお、当該標識については、自治会にて補助金(活性化補助金)を活用されて設置されています。(例:自治会館、公園、大きな駐車場等)

※標識設置のメリットとしては、大規模地震が発生した際、避難指示の発令により指定避難所へ避難するにあたり、安否確認を含めて各自治会で決められた一時避難場所へ避難することは大変有効であり、集合場所を見える化することにより実効性を伴います。

野洲市の水害例

台風18号:
野洲駅前の交差点
駅側から撮影

水深は約50cm

富士美台では
ゴミ集積場前で約30cm

冠水後



冠水前



平成25年9月の台風18号は、40時間に344mmの大雨。駅前で水害被害が発生！

大雨特別警報発令 9月16日 5時05分 避難指示 8:32 ●篠原学区 コミセンしのはら 118世帯 317人
篠原こども園 108世帯 249人

※日野川はんらん危険水位超過(5.1m)

●避難状況 市内257世帯 652人

- 被害実例(対策) ①滋賀銀行野洲支店浸水 (対策)大雨予想時点⇒シャッター前にブルーシート・土のう措置
②自転車預かり所 浸水 (対策) " ⇒ 出入口に堰止め板措置
③マンション敷地内の機械式駐車場の地下層浸水 (対策) " ⇒ 地上階に車移動
④床下浸水 (対策) " ⇒ 道路からの水の流入措置(ブルーシート、土のう、堰止め板)床下通気口を塞ぐ。

平成25年9月15日台風28号における野洲市内の状況



野洲駅前交差点の冠水状況（正面野洲駅）



野洲駅前交差点北側の冠水状況



JR地下道（富波乙地先）



家棟川の状況（北地先）



日野川桐原橋の状況



妙光寺土砂崩れ

風水害の対応に係るタイムライン(例)

時系列	発生事象(市対応)	日時	自主防災組織の対応	個人での対応
72時間前	台風発生		□テレビ(NHK dボタン)、インターネットで台風の進路をチェックする。	□テレビ(NHK dボタン)、インターネットで台風の進路をチェックする。
48時間前	大雨・洪水注意報 台風直撃の可能性 が大きい		<p>●自治会三役にて対応協議、役割確認を行う。</p> <p>□自治会館内外の整理の確認を行う。</p> <p>□危険箇所の安全点検を行う。(河川の合流点、道路の低地、ごみ集積所等)</p> <p>□資機材の準備を行う。</p> <p>□土のう又は水のう</p> <p>□ブルーシート又は堰止め用の板</p> <p>□カラーコーン(通行止め用)</p> <p>□停電の対策(発電機、投光器、懐中電灯、ランタン)</p> <p>□飲料水の確保(役員用)</p> <p>※要配慮者とは、高齢者(75歳以上)、病人、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国人</p>	<p>□避難先及び避難方法を検討する。</p> <p>□自宅待機、□安全な場所(親戚や知人家)⇒連絡する。</p> <p>□一時避難場所(自治会館)、□指定避難所</p> <p>□家の周りの安全点検を行う。</p> <p>□雨樋、側溝や雨水桝に木の葉・ごみがないか。</p> <p>□屋上の飛散する物はないか。(植木鉢等の移動)</p> <p>□床上浸水に備えて大切な物は、2階へ移動する。</p> <p>□停電・断水対策を行う。</p> <p>□懐中電灯(ランタン)の点灯確認 □飲料水の確保</p> <p>□食糧の確保 □車の燃料の補充</p>
24時間前	彦根地方象台(特別警報級の可能性示唆)		<p>●自治会館内に警戒本部(自治会三役集合)立ち上げ</p> <p>□自主防災組織の下記の役員に対して出動準備要請 (班長、副班長、情報班、避難誘導班、要配慮者支援班)</p> <p>□事前対策対応の為に消火班に集合要請</p> <p>□危険箇所の再点検、道路冠水、浸水箇所の措置(土のう、水のう)</p> <p>□避難誘導班に集合要請(要配慮者の所在を事前確認)</p>	資格最終の対策を行う。 □雨戸を閉める。 □非常持ち出し品をチェックする。 □道路冠水、浸水に備えての措置を行う。 □土のう、水のう又はブルーシートの設置(玄関前) □安全な場所へ避難完了 □携帯電話の早めの充電
12時間前	記録的短時間豪雨情報 土砂災害警戒情報 大雨警報(洪水警報) 氾濫危険情報(河川) ①自主避難所開設(市) ②指定避難所開設(市)		<p>●災害対策本部立ち上げ</p> <p>□自主防災組織の下記の役員に対して集合要請</p> <p>□役員(三役、班長、副班長)・情報班・避難誘導班・要配慮者支援班</p> <p>□一時避難場所(自治会館)への受け入れ準備完了。</p> <p>□要配慮者への呼びかけを行う。【避難誘導班】</p> <p>□付近の河川の上流の雨量・河川の水位を調べる。(町内のハバロール)</p> <p>※①②開設時には市(危機管理課)から該当自治会長へ連絡あり。</p>	<p>□避難しやすい服装に着替える。</p> <p>□避難時の持参品(水、食糧、マスク、除菌シート、体温計)チェック。</p> <p>□要配慮者は、避難支援を要請する。</p> <p>□暗くなる前、冠水する前にためらわずに早目に自主避難する。(一時避難場所・自主避難所へ)</p> <p>□指定避難所へ避難する。</p>
12～6時間前	③高齢者等避難 ④避難指示		<p>□一時避難場所(自治会館)、自主避難所へ要配慮者を避難誘導する。</p> <p>□指定避難所へ避難誘導する。【要配慮者支援班】</p> <p>※③④発令時、行政無線、メール等にて連絡あり。</p>	<p>□要配慮者は、避難完了。</p> <p>□上記の者以外、自主避難所・指定避難所へ避難完了。</p> <p>□外へ出るのが危険な時は、自宅避難。</p>
6～1時間前	台風接近 河川氾濫危険水位 野洲川 3.8m 日野川 5.1m (神原橋) 4.3m 河川氾濫危険水位 4.8m		<p>□町内のハバロール実施 (注意)危険性のない状況下で実施。</p> <p>⇒ ③高齢者等避難発令</p> <p>⇒ ④避難指示発令</p>	<p>□自宅又は避難先にて避難中 □知人・親戚へ連絡</p> <p>□テレビ、ラジオ、スマートフォンでの情報収集。</p>
0時間	河川の氾濫発生 ⑤緊急安全確保		<p>□情報収集</p> <p>※⑤発令時、行政無線、メール等にて連絡あり。</p>	<p>□自宅避難⇒2階への垂直避難、平屋建てはテール上</p> <p>□身の安全を確保し、救助を待つ。 □知人・親戚へ連絡</p>
1～3時間後	道路冠水 床下、床上浸水 警報解除		<p>□通行止めの措置(夜間の時間帯は除く)</p> <p>□誘導員の配置 □カラーコーンの設置</p> <p>□町内のハバロール実施(被害状況調査)⇒夜間は除く。</p>	<p>□自宅、安全な場所、一時避難場所、自主避難所、指定避難所待機。</p>
3～6時間後			<p>□一時避難場所(自治会館)を閉じる。</p> <p>□各班活動終了後、災害対策本部を解散する。</p>	<p>□安全が確保され次第、避難先から帰宅する。</p>

地震発生時の行動チャート

個人の行動

○どのように避難すればいいの？

※自治会で決められた一時避難場所へ避難！

1) 避難する際は、頭を守り徒歩で！

⇒ 避難場所へ移動中、看板や壁などが落ちてくることもあるので、ヘルメットや頭巾など頭を守って避難するようにしましょう。

2) 隣近所にも声をかけて、みんなで避難！

⇒ 災害時には、地域のみなさんが助け合って行動すること（共助）が大切です。
特に、高齢者の方や身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで避難しましょう。

※ 要配慮者（災害時、高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する人）の避難誘導

3) 災害時の必需品は忘れずに！

⇒ 地震による災害発生後は、道路の寸断などにより救助や支援活動が満足にできないため、緊急物資の輸送が困難になります。このため、救助や支援が受けられるまでの食料・飲料水やケガの応急手当をするための救急薬品などは避難するときに持っていきましょう。

⇒ ※自治会の災害対策本部にて安否確認・被害状況を報告後、集団で市の指定緊急避難場所又は指定避難場所へ

自主防災組織の行動

○自主防災組織の行動

自主防災組織集結

※各自治会で予め決められた一時避難場所へ集結
※集結途上で被害状況の確認



人員点呼・活動開始

※各班員の人員点呼
※一時避難場所に指揮本部開設
※安否確認
※（仮称）情報班による被害情報の収集
※（仮称）消火班による初期消火
※（仮称）救出・救護班による救出活動等



指定緊急避難場所・指定避難所へ移動

※指定避難所の運営

時系列	発生事象(市対応)	自主防災組織の対応内容	個人の対応内容
発災時	地震発生(震度4)	<p>●自治会館内に警戒本部立ち上げの準備(三役集合)</p> <p>○テレビ、インターネットから情報を得る。</p> <p>○自治会内の被害状況の把握</p>	<p>○テレビ、インターネットから情報を得る。</p> <p>○家族の怪我人の有無、家屋の被害状況の把握</p>
発災時	<p>地震発生(震度5弱)</p> <p>ポイント</p> <p>震度5弱で、自動的に警戒本部を設置し、先ずは要配慮者の安否確認を優先する。</p>	<p>●自治会館内に警戒本部設置</p> <p>【自主防災組織役員(会長、副会長、班長、副班長)・情報班・避難誘導班・要配慮者支援班・消火班】</p> <p>○それぞれ自主的に自治会館に集合し、警戒本部を設置する。</p> <p>○会長は、避難誘導班に要配慮者の安否を確認させる。</p> <p>●被害が発生している場合は、災害対策本部に切り替え各班で対応に当たる。</p> <p>【情報班】</p> <p>○テレビ、インターネットにより情報を収集する。</p> <p>○要配慮者の安否情報を収集し、会長へ報告する。</p> <p>【避難誘導班】</p> <p>○要配慮者の安否確認を行なう。</p> <p>○要配慮者を本部(情報班)へ報告する。</p> <p>○わかる範囲で他の重要な情報(怪我人、倒壊家屋、通行不可)も報告する。</p> <p>【要配慮者支援班】</p> <p>○会長の指示により、要配慮者の支援を行なう。</p> <p>○わかる範囲で他の重要な情報(怪我人、倒壊家屋、通行不可)も報告する。</p> <p>○避難する状況であれば、一旦、一時避難場所へ避難誘導する。</p> <p>【消火班】</p> <p>○区内をパトロールして、被害状況を調査し、本部へ報告する。</p> <p>【救出・救護、給食・給水班の各班員】</p> <p>○各班員は、自宅周辺で被害があった場合は、班長(副班長)へ報告する。</p> <p>○班長からの指示があるまで自宅で待機する。</p> <p>○班長からの指示があった場合、本部へ集合する。</p>	<p>○家族の安否確認を行なう。</p> <p>怪我人がいれば応急処置を行なう。</p> <p>○テレビ、インターネットから情報を得る。</p> <p>○家の被害状況を確認する。</p> <p>○近所に声掛けを行い安否確認を行なう。</p> <p>○家の中が安全であれば自宅待機する。</p> <p>○家の中が危険であれば、一旦、自治会内の一時避難場所(自治会館、公園)へ避難する その際には、非常持ち出し袋を持参する。</p> <p>○避難する際には、ガスの元栓を締め、電気のブレーカーを落とす。</p> <p>○避難した旨の印(札、黄色のタオル)を玄関先に掲げる。</p>
30分～6時間後	その後の対応状況	<p>○要配慮者を一時避難場所から指定避難所へ避難誘導する。</p> <p>○町内の被害状況を調査し、情報収集する。</p> <p>○情報収集の結果については、市(危機管理課)へ報告する。</p> <p>○各班の活動終了後、警戒本部を閉じる。</p>	<p>○避難誘導班員の指示に基づき、一時避難場所から徒歩又は車にて最寄りの指定避難所(小学校等)へ避難する。</p>

時系列	発生事象(市対応)	自主防災組織の対応内容	個人の対応内容
<p>発災時</p>	<p>地震発生(震度5強以上)</p> <p>ポイント</p> <p>震度5強以上で、自動的に対策本部を設置し、各班は、事前に取り決められた役割を遂行する。避難誘導班は、区民全体の安否確認を優先し、被害状況の全容を掴み本部へ連絡する。</p> <p>⇒本部は、全容を掴むことにより効率的な人員の配置を行う。</p>	<p>●自治会館内に対策本部設置</p> <p>【自主防災組織役員(会長、副会長、班長、副班長)・情報班・避難誘導班・要配慮者支援班】</p> <p>○それぞれ自主的に自治会館に集合し、対策本部を設置する。 ○会長は、被害状況の把握に努め、各班に指示を出し対応に当らせる。 ○班長、副班長は、会長の指示により災害対応に当る。</p> <p>【情報班】</p> <p>○テレビ、インターネットにより情報を収集し、必要に応じて区民へ伝達する。 ○区民の安否情報を集約し、随時会長へ報告する。 ○各班から入手した情報を整理し記録する。</p> <p>【避難誘導班】</p> <p>○対策本部に直接参集せず、複数名で隣保単位に集合して、担当エリアの区民(要配慮者を含む)の安否確認を行う。 ○可能な限り班長に安否確認着手の連絡を入れ、終了後は結果報告を行う。 ○安否確認中に火災又は要救助者を発見した場合は、消防署及び対策本部に対して、消火又は救助を要請し、他者が到着するまで応急対応を行い、他者が到着後は安否確認を継続する。 ○避難者は安全な所へ待機させておき、安否確認が終了した後、グループ単位で、一時避難場所へ移動させる。その後、安否確認を継続する。</p> <p>【要配慮者支援班】</p> <p>○直接担当する要配慮者の安否確認を行なう。 ○要配慮者を一時避難場所(自治会館)へ避難誘導する。 ○状況により指定避難所へ移動させる。</p> <p>【消火班】</p> <p>○火災を発見しない限りは、先ずは対策本部に集合する。 火災を発見した場合は、消防署並びに対策本部に連絡を入れた後、現地で消火作業に当る。 ○班長の指示により、火災発生現場へ駆け付け消火作業を行う。 ○状況によっては、救出救助班とともに救助活動を行う。 ○区民の安否が確認できたら、道路や山の斜面に亀裂等が無いかわり被害状況を調査し、異常が見られた場合は市(危機管理課)へ連絡する。</p> <p>【救出・救助班】</p> <p>○家屋倒壊などの被害が見られない場合は、先ずは対策本部に集合する。 ○区内をパトロールして、被害状況を把握する。(怪我人、道路障害、家屋の被害) ○班長の指示により、要救助者の救助活動を行う。 ○状況によっては、消火班とともに消火活動を行う。</p> <p>【給食・給水班】</p> <p>○地震災害の初動時には、避難誘導班とともに区民の安否確認を行う。</p>	<p>上記と同じ</p>
<p>30分～12時間後</p>	<p>その後の対応状況</p>	<p>○町内の被害状況を調査し、情報収集する。 ○情報収集の結果については、市(危機管理課)へ報告する。 ○各班の活動終了後、対策本部を閉じる。</p>	<p>○避難誘導班員の指示に基づき、一時避難場所(小学校等)へ避難する。 又は車にて最寄りの指定避難所(小学校等)へ避難する。</p>

被害状況・安否確認用紙(各世帯用)

自主防災組織名	【 班(組) 】
地域の集合場所 (一時避難場所)	

住 所			
電話番号		緊急連絡先(氏名) (携帯)	
建物被害	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 全壊	<input type="checkbox"/> 半壊
	<input type="checkbox"/> 一部倒壊	<input type="checkbox"/> 床下浸水	<input type="checkbox"/> 床上浸水
		<input type="checkbox"/> その他	
出火防止措置	<input type="checkbox"/> 電気のブレーカー切断	<input type="checkbox"/> ガスの閉栓	<input type="checkbox"/> 未実施
避 難	<input type="checkbox"/> 避難所避難する	<input type="checkbox"/> 自宅で生活する	<input type="checkbox"/> その他()

	な 名	ま 前	性別	年齢	支援	負傷	防災活動
世帯主					要・否	有・無	可・不可
1					要・否	有・無	可・不可
2					要・否	有・無	可・不可
3					要・否	有・無	可・不可
4					要・否	有・無	可・不可
5					要・否	有・無	可・不可
6					要・否	有・無	可・不可
7					要・否	有・無	可・不可
合計	要支援	人	負傷者	人	防災活動可能	人	人
備考							

- 注1 名前、性別、支援欄及び防災活動欄は、事前に記載しておいてください。
 注2 災害が発生したときは、建物被害について分かる範囲で記載してください。
 注3 災害が発生したときは、情報収集として班長に提出ください。班長⇒自治会情報班長へ
 注4 避難など支援が必要な方は、「要」に○を付け、具体的な内容を【備考欄】に記載してください。

★本件の用紙は、市内のある自治会が防災訓練の際に安否確認として使用されているものです。

★本件の用紙は、冷蔵庫に貼っておく、非常持ち出し袋の中に入れておく。

自主防災組織の防災資機材一覧表

※あくまで推奨する資機材を示しています。

(隊員の装備)

- ヘルメット
- LEDヘッドライト
- 帽子
- 法被
- ジャンパー
- 活動服
- 長靴
- 安全シューズ
- タオル
- マスク
- 軍手
- ホイッスル

避難誘導活動

- LED懐中電灯
- サイレン付き拡声器
- メガホン
- 誘導灯 LED(点滅式)
- 予備電池 (アルカリ乾電池7年又は10年保存タイプ推奨)

情報収集・伝達活動

- 携帯ラジオ
- 手回し/ソーラー蓄電ラジオ (携帯電話充電機能付)
- 携帯電話用充電器 (手回し)
- LEDランタン
- 予備電池 (アルカリ乾電池7年又は10年保存タイプ推奨)
- 地図
- メモ帳
- 模造紙
- 情報書き込みフィルム(壁、ガラスに貼れて水性マーカーで書き込めて水拭きで消せる)
- 油性マジック、ボールペン
- トランシーバー
- 自転車

初期消火活動

- 小型動力ポンプ
- 軽可搬ポンプ
- 消火器
- 消火用水バケツ

救出活動

- チェーンソー
- エンジンカッター
- ゴーグル
- 防塵マスク
- 皮手袋
- レスキューキット
- 平バール
- 大ハンマー
- 折込みのこぎり
- ボルトカッター
- ショベル (丸型)
- 爪付き油圧ジャッキ
- 自動車用ジャッキ
- 万能オノ
- ツルハシ
- 発電機
- 携行缶
- コードリール
- 投光機
- カラーコーン
- カラーコーン用バー
- トラロープ(100m)
- 土嚢袋
- 水のう(ダブルチャック式再利用可)
- 雪掻きスコップ

救護活動

- テント
- テント暴風幕
- ブルーシート
- 防寒・暴風アルミシート
- 簡易担架
- 折りたたみリヤカー
- 救急セット（ガーゼ、包帯等）
- サランラップ
- ゴミ袋
- AED（自動式対外除細動器）
- 災害対策用プライベートルーム
- 簡易ベッド
- 段ボールベッド
- 毛布
- アルミマット

生活維持活動

- 飲料水（500ml、1000ml、5年・10年保存）
- 非常食（アルファ化米、マジックライス(ご飯と雑炊兼用)、缶入りパン等5年保存)
- カセットコンロ(予備ボンベ)
- 鍋、やかん
- 食器セット(紙コップ、紙皿、スプーン)
- かまどセット
- 非常用飲料水タンク(折りたたみ式コック付き 20ℓ)
- 災害用トイレセット(既設のトイレ活用タイプ)
- トイレレットペーパー
- マスク
- 手指消毒液
- 消毒・除菌液
- プラスチック手袋
- ウェットティッシュ
- ペーパータオル

防火活動

- 拍子木
- 安全ベスト

大津版タイムライン

～風水害等進行型災害に備え、地域で先行した対応を取るための手法～

大津市

◎ 大津版タイムラインの目的

風水害など大雨による災害は、現象が長時間にわたり、事前に災害や被害の規模等が想定される災害（以下「進行型災害」という。）です。
本市においては、気象情報発令の段階に応じて災害警戒体制が敷かれ、職員・地域住民（自主防災会）をはじめとする関係者が地域の災害拠点に参集されてきます。

今回、この進行型災害に備え、災害発生前の早い段階から地域の関係者と防災関係機関が緊密に連携できるような手法を考案し、被害の予防と軽減につなげることを目的としています。

◎ タイムラインとは

高潮災害等に備え「防災行動指標」としてアメリカで考案

タイムラインは、ハリケーンによる高潮災害等に備え、どのような対応を実施するか等の防災行動を策定しておく、その計画の行動によって被害を最小限に引き止める手法を工夫しようとするもの。

我が国・日本の防災計画の実情

我が国では、地震等の短時間の現象で予測や準備が困難な災害に対して、災害発生後の対応をまとめた計画の策定など、災害発生後の対応は強化されているが、風水害など現象が長時間にわたり、事前に災害や被害の規模等が想定される災害に備える計画策定がされていないのが実情です。

◎ 従来の参集状況イメージ



何かあってからではダメなの？

台風はまだ遠くにあるぞ。雨も降っていないし、何もするところがないぞ！

困りますよね！長い一日になりそうだ。

決められた要務がないため、雨雲が通過するのを待つ状態。被害が出てから、慌てて行動をすることに。

◎ 従来の訓練風景（被害状況の把握）



皆さん、訓練、ご苦労さまです！

それでは、各自治会の状況を順番に報告してください。

〇〇自治会は、怪我人などはありません。避難者は50人でした。

〇〇自治会から報告します。土砂くずれ3件、道路の冠水2件、怪我人5人、避難者は30人です。

被害件数や避難者数といった、数字の報告会にどこで、何が発生し、どうなっているのかを把握することが大切！

◎ タイムラインによる参集状況イメージ



取るべき行動【タイムライン】が書かれたホワイトボード

事前に何をしなければならないか分らないね！

農業用水路をけちらうよ。農業者も要するよ。

土砂災害警戒区域には、再確認してお団にお願いをせしめるようにしておきましょう。

台風はまだ遠くだが、今はちがいで準備しておくことを確認しよう！

◎ タイムラインによる被害状況の把握



この行方不明情報は、早くと消防に連絡するのだ！

この場所や対応状況を地図を囲みながら把握。

この辺りの土砂災害警戒区域の住民の避難はどうか確認してもらおう！

この場所でも道路冠水してはいれば、迂回を伝えよう！

※ 裏面も見てください！

【「大津版タイムライン」の概要】

気象レベルと災害行動の表（ホワイトボードに書かれた「3」）

レベル	警報等	気象の状況	必要行動
5	【特別警報】	重大な災害がさらに拡大する	緊急避難 (非常警報5段階)
4	【特別警報】	重大な災害の発生のおそれ大きく大	緊急避難 (非常警報5段階)
3	【警報】	重大な災害の発生する可能性	避難行動・避難準備 早期の安全確保
2	【注意報】	災害の発生・被害が発生する可能性	早期の安全確保
1	【情報】	重大な災害の発生し始める	準備・行動計画

“命にかかわる甚害情報”やその情報を放置することで、“二次的な被害の発生に直結する甚害情報”などを貼り出していく。また、これら重要情報を市災害対策本部等と共有し、決して未対応事業が発生しないよう情報の管理を行う。

気象レベルに合わせ、早めに動けるよう目安となる文字を事前にホワイトボードに書いておく。雨の降り方が強まる予報が出ている場合などは、具体的な時刻を書いておく、その時刻になったら対応する。

具体的な行動をはじめるとタイムラインの内容をホワイトボードに記載し、進捗を管理する。

ホワイトボード上の重要情報は地図で場所と内容をビジュアル化。

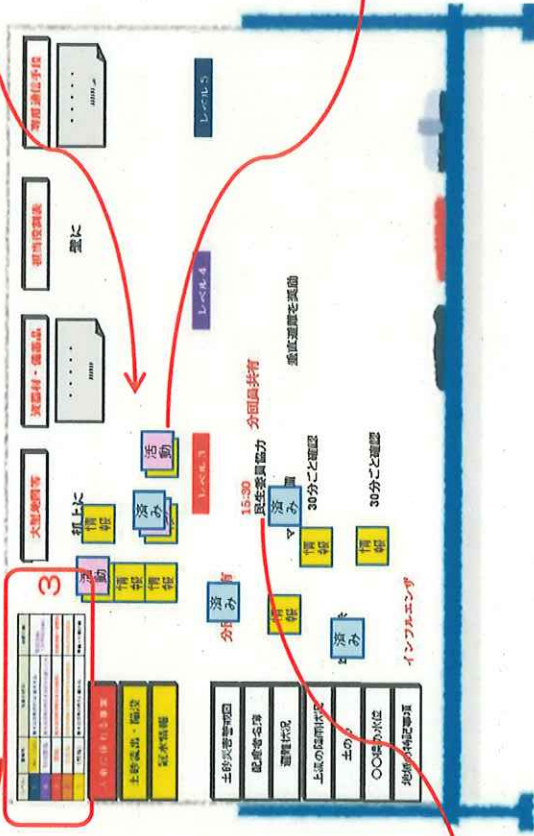


情報の管理は、全てカラーメモにて！最新情報を上に貼っていく。



黄色：入電時等の初期情報
赤色：現場到着や活動の情報
青色：安全確保や収束情報

ホワイトボードで行動計画・活動・情報を集約



【YouTubeチャンネルでの動画について】

今般、「大津版タイムライン」の概要動画(15分00秒)をYouTubeチャンネルに掲載しました。「大津版」消防局「タイムライン」訓練「自主防災会」「防災訓練」などの検索ワードで検索してみてください。
※ インターネット接続等に関する費用が掛ります。各自でご負担ください。

問合せ先

大津市北消防署 (572-0119)
大津市中消防署 (525-0119)
大津市南消防署 (533-0119)
大津市東消防署 (543-0119)

大津市北消防署 志賀分署 (592-0119)
大津市中消防署 西分署 (579-0119)
大津市南消防署 南郷出張所 (537-0119)

分散避難（避難先の多様化）の検討

指定避難所に大勢の避難者が集まると**感染症のリスクが高まります**。**分散避難についても検討**してみましょう。また、最寄りの指定避難所までの移動が危険な場合には在宅避難をしてください。

主な分散避難として**在宅避難（自宅退避）**、**縁故避難**、**宿泊施設への避難**などがあります。

① 在宅避難（自宅退避）

ハザードマップ、および、その時点における周囲の状況からも**自宅の安全性が確認できる場合**には、感染症対策の観点から在宅避難も選択肢になります。

また、水害等で指定避難所までの**移動が危険な場合**には在宅避難を選択してください。

風水害の場合には**自宅内で最も高い位置にあり、斜面からも一番遠い部屋**で過ごす（**垂直避難**する）ようにしましょう。



山・崖から離れた2階以上へ避難

● 在宅避難のメリット

- ① 指定避難所よりも感染症のリスクが低い
- ② 移動が困難な方への負担がない
- ③ 居住性が高い
- ④ ニーズに一致する備蓄品を用意できる

● 在宅避難の留意点

- ① 地震や水害など、災害別に自宅の安全性をしっかりと確認する必要がある
- ② 在宅避難することについて、地域の人たちとコミュニケーションをとっておく
- ③ 非常食や健康チェック等の公的支援を受けにくい可能性がある
- ④ 支援や復旧に関する公的情報が入手しにくい場合がある

コラム 4

高齢者や重い持病のある人は、分散避難が適切な場合も

高齢や重い持病等によって災害時の移動が負担となる人は、自宅の安全性をしっかりと確認したうえで、在宅避難を選択するのが最適な場合があります。避難所での集団生活が長期間に及ぶと、心身ともに疲労が蓄積し、体調悪化の一因となります。体調管理に配慮が必要な人は、安全性について確認をとったうえで、在宅避難のほか、縁故避難や宿泊施設への避難を検討してください。

② 縁故避難

ハザードマップやその時点における周囲の状況からみて**安全な地域に住む親せき宅や知人宅も、避難先の選択肢**として考えましょう。

縁故避難を考える場合には、日頃から避難について相談しておくなど、事前に相手との合意を形成しておきましょう。



● 縁故避難のメリット

- ① 指定避難所よりも感染症のリスクが低い
- ② 居住性が高い

● 縁故避難の留意点

- ① 事前の合意がないと、受け入れが困難な場合がある
- ② 長期間の避難になる場合には、受け入れ先に大きな負担となる場合がある
- ③ 居住地から離れたところにある場合には、公的支援や公的情報が入手しにくいことがある

③ 宿泊施設への避難（ホテル避難）

縁故避難が難しい場合には、**ホテルや旅館などに避難**することも可能です。ハザードマップで立地や移動ルート**の安全性について確認**しておきましょう。



● ホテル避難のメリット

- ① 感染症対策がとられている
- ② 居住性が高い

● ホテル避難の留意点

- ① 当日の受け入れが可能か確認する
- ② 長期間の避難になる場合には、経済的な負担が大きくなる
- ③ 居住地から離れたところにある場合には、公的支援や公的情報が入手しにくいことがある

④ 車中避難

指定避難所の定員が超えていて、自宅に戻ったり、移動したりすると危険な場合があります。**やむを得ない場合には**、自家用車内で避難する方法もあります。

● 車中避難のメリット

- ① 指定避難所よりも感染症のリスクが低い
- ② ペットと一緒にいられる*

● 車中避難の留意点

- ① エコノミー症候群など、健康上の問題が生じる可能性がある
- ② 駐車位置によっては、公的支援や公的情報が入手しにくい場合がある

*あらかじめペットについてルールを定めて受け入れている避難所もあります。

7

気象庁による「雨の強さと降り方」






ふだん天気予報で耳にする「強い雨」や「猛烈な雨」とはどの程度の雨量を意味しているのでしょうか。また、どのような災害が発生する可能性があるのでしょうか。この機会にあらためて確認しましょう。

1時間雨量 (mm) 雨の強さ (予報用語)	10以上～20未満 やや強い雨	20以上～30未満 強い雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる

出典：気象庁リーフレット「雨と風（雨と風の階級表）」を加工して作成

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_index.html (平成12年8月作成、平成14年1月一部改正)

- (注1) 「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかけます。なお、注意報や警報の基準は地域によって異なります。
- (注2) 猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」が発表されることがあります。なお、情報の基準は地域によって異なります。
- (注3) 表はこの強さの雨が1時間降り続いたと仮定した場合の目安を示しています。この表を参照される際は、以下の点にご注意下さい。
- 1) 表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。
この表ではある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
 - 2) この表は主に近年発生した被害の事例から作成したものです。今後新しい事例が得られたり、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

 30以上～50未満 激しい雨	50以上～80未満 非常に激しい雨	 80以上～ 猛烈な雨
バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
傘をさしていてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる 	
寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険	
山崩れ・がけ崩れの危険地帯では避難準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要 

危機管理ハンドブック⑦ 風水害・土砂災害に備える

監 修 中邨 章 明治大学名誉教授

編集発行者 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 日本消防会館4階

Tel: 03-3593-2823 Fax: 03-3593-2832

URL: <http://www.boukakiki.or.jp/>

印 刷 株式会社アイネット

発 行 2016年1月

住民の力 犠牲者ゼロ

昨年10月の台風19号で、宮城県大郷町中粕川地区では川の堤防が決壊し、家屋の約9割が半壊以上の被害を受けた。だが、犠牲者が出なかった。住民に早めの避難を促した自主防災組織の活躍があった。

長年、水害に悩まされてきた大郷町は各地区に自主防災組織がある。このうち約100世帯3000人ほどの中粕川地区の自主防災組織は、総務班や避難誘導班、救出班など7つの班制。災害時の行動マニュアルを要

支援者の見守りをしたマニュアルも作成している。台風19号では町が午後「避難準備・高齢者等避難開始」を出した早い段階で、総務班が各戸を回り、避難状況の確認や避難の呼びかけを実施した。2時間以内

に、9割が早めの避難を終えた。夜に避難指示が出る。自主防災組織は世帯に避難を命じた。2階への垂直避難を命じた一部の家は、避難指示が出た後、救出されるなど課題は残った。犠牲者は出なかった。会長の赤間正さん(68)は「防災訓練で毎年重ねてきたことを実践できた」と振り返る。

地区では、防災の観点から、夏祭りや敬老会などで顔が見える人間関係をつくることが重視してきた。東北大災害科学国際研究所の佐藤朝晴准教授(災害情報学)は「自主防災組織が住民の命を守る活動を支えることが、実効性のある避難対応のキーポイント」と指摘する。

自主防災組織 災害時の動き

宮城県大郷町
中粕川地区の例



自主防災組織

災害時、地域の共助の中核となる。自治会や町内会内に結成される場合もある。全国に約16万7000団体あり、8割以上が高齢化などで地域の人のつながりが希薄になったり、活動の形骸化が指摘される。住民が自主的に作成できる「地区防災計画」の制度が2014年に始まっており、計画作りを通して組織の活性化を図るなどしたい。

防災訓練

地域の防災力を上げるには、定期的な訓練が欠かせない。参加者を増やし、継続的に参加してもらったため、楽しみの要素や目新しさを加えることも必要だ。ポーターの救助訓練に花見を組み合わせた。電車で広域避難をする際の行動を試してみたり、競争の要素を取り入れた防災運動会を開いたり、様々な動きがある。

マンション

浸水被害の可能性が低い中層階以上に住む場合、避難所の湿雑を避けるためにも、「在宅避難」が求められる。ただ、停電でエレベーターが止まると、物資の運搬が難しくなるなど生活に支障が出る。管理組合で設備おきに備蓄するなどしておきたい。近隣住民の一時避難場所としての役割も期待され、受け入れについて行政側と協定を結ぶ動きもある。

*救助のポイントには15日から「くらし家庭」面で紹介します。

自治会における防災活動の紹介

○1 例目 A 自治会

【災害対応のタイムラインを作成】

自主防災組織において、緊急連絡網を見直しされ、更に災害対応のタイムラインを作成し、役員の役割・行動を具体化されてスムーズな活動ができるように取り組んでおられる。

(自然災害時の対応イメージ)

1 風水害(台風・豪雨)時の対応

※台風接近に対しての役員行動同申し合わせ事項

2 地震災害時の対応

○2 例目 B 自治会

【災害時の対応シートの全戸配布】

- ・地震、水害、台風の場合の各自の行動を分かりやすく示されました。
- ・本件のシートを見易い場所(冷蔵庫等)に掲示し、見える化されました。

○3 例目 C 自治会

【防災関連動画の紹介】

自治会の回覧を通じて自治会員に対して防災関連の情報を発信されて地域ぐるみで防火防災に取り組んでおられる。

○4 例目 D 自治会

【在宅避難に必要な物(簡易トイレ)の紹介】

自治会の広報紙(自主防災だより)を通じて自治会員に対して情報を発信されて地域ぐるみで防火防災に取り組んでおられる。

【自然災害時の対応イメージ】(案)

1.風水害(台風・豪雨)時の対応

*台風接近に対しての役員行動申し合わせ事項!

台風位置	行動基準	飛散防止対策	行動内容	担当
接近前	大雨注意報 洪水注意報	飛散防止対策	・ゴミ集積所のコガサ、PET用布袋を集積所内へ移動 ・自治会館、道路看板、カーブミラー、街灯、消火栓等々飛散防止のこと	
接近中	暴風警報 大雨警報 洪水警報	対策本部設置 (自治会館内)	・設置基準は? (自治会長が招集) ・情報収集 (市、TV、インターネット等) ・必要により、各戸へ情報伝達⇒①避難準備②避難勧告③避難指示 (緊急連絡網に従い各戸へ連絡!)	
通過後	気象警報解除	被災状況確認及び処置 (場合により安否確認)	・公的施設(自治会館、公園、ゴミ集積所、カーブミラー、街灯、生活道路) ・水路、農道(異常気象対応として) ・消防関連(ポンプ小屋、消火栓、ホース乾燥塔)、防災無線塔等 ⇒必要により清掃等の後片付け実施、及び関係部署(市、総代)に相談、連絡等	

- (1) 自主防災会組織に従い行動する。(緊急連絡網、情報伝達内容及び方法/台風接近時間帯(夜中等)で事前連絡必要か?等確認)
 (2) 行動に必要備品は、事前に準備確認のこと。不足なら購入。
 (3) まずは、役員がまっさり行動し、順次区民の皆様にも周知願う。

2.地震災害時の対応

経過時間	個人の行動	自主防災会等の行動	担当
地震発生 ～10分位	・自分の身を守る ・家族の安否確認 ・火の始末 ・避難行動準備(非常持出品準備)	【災害直後の対応】 ・火災発見時、初期消火 ・避難行動要援者の安否確認・支援	
～30分位	・隣近所や周辺の安全確認 ・テレビ・携帯等で災害情報収集	【救出・救護活動】 ・負傷者の救出 ・負傷者の応急救護及び搬送	
～3時間位	・避難必要時、集団で避難行動開始	【被害情報の収集・伝達】 ・地域内の見回りにより被害状況収集 ・災害情報の収集・整理 ・市からの情報を区民の皆様へ伝達	
～24時間位	・在宅避難又は避難所での生活 ・避難所運営への参加・協力	【避難所の開設・運営】 ・避難所の開設、受け入れ準備 ・避難所運営委員会に参画し主体的に運営	
以降			

- (1) 自主防災会の役割・行動を具体化させる。
 (2) 訓練として、①総合訓練 ②個別訓練(消火班、情報班、避難誘導班、救出救護班、給食・給水班)を計画的に進めてはどうか?

(3) 一時避難場所(集合場所)のPR

	災害最大規模 (ハザードマップより)	最大被害状況	予知手段	屋内避難	屋外避難	日頃の準備
1	・震度： 6強	・建物 は傾くものや、倒れるもの がある ・壁にひび割れ・亀裂もある	・不可	① 机の下か、廊下・玄関(ドアを開く)に避難 →消火は揺れが収まった後 ② 本震が収まった後、火元の確認・初期消火、ガスの元栓：閉、電源ブレーカ：切	① 頭を保護、非常用品を持参し屋外へ ② 隣近所に声かけ、大公園に集合	・2階は1階より安全 (寝室には靴と懐中電灯を常備) ・家具等は転倒防止器具で固定 ・非常用品・備蓄品の常備
2	・ 暴風域 (平均 25m/s 以上) ・ 最大瞬間風速 46.2m/s (2018年)	・ 床上浸水	・ 防災行政無線 (野外スピーカ) ・ 野洲市防災アプリ、メール、LINE ・ テレビ・インターネット	① 「警戒レベル 3」発令 避難準備 →貴重品は高いところに移動 ② 「警戒レベル 4」発令 2階に避難	① 雨戸を閉じ、屋内に待避 →すだれ、物干し、植木鉢等は前もって片付け	・日頃使用しない貴重品は2階に保管
3	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震
4	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震
5	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震
6	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震	・ 地震

声かけの実施 (組長…情報班・避難誘導班、 隣近所の人)

1	・ 安否確認 ・ 注意喚起	・ 屋外避難後、各世帯の安否確認 →「…さん、皆さん大丈夫ですか。大公園に集合して下さい。」	・ 警戒レベル3発令時、各世帯に注意喚起 →「…さん、警戒レベル3が発令されましたので、避難準備をして下さい。何かあれば、お手伝いをしますが大丈夫ですか。この後、警戒レベル4が発令されたら、2階に避難して下さい。」
---	--------------------------------	--	---



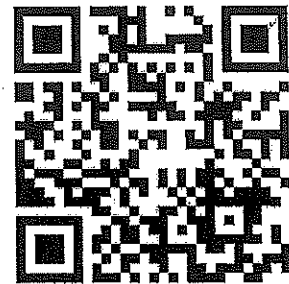
防災関連動画のご紹介

自治会長

日頃より、自治会の運営に際し、ご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

8 月度の役員班長会において、動画視聴による防災訓練を実施しました。視聴した YouTube 動画のリンク先をご紹介します。ぜひ、ご覧いただき、万が一への備えとしていただければと思います。

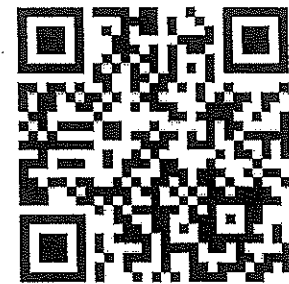
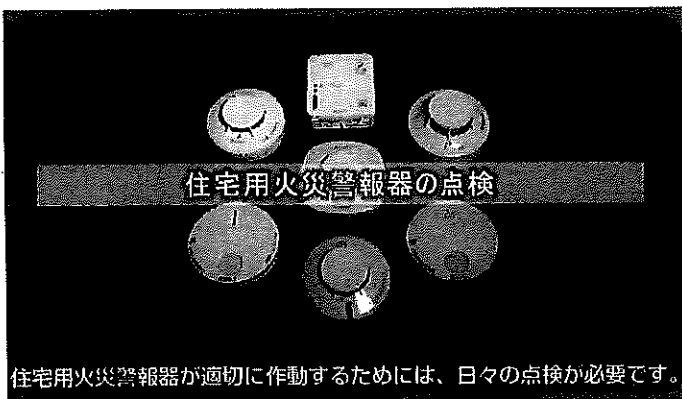
■ 消火栓器具ボックス取扱方法 (約 9 分)



<https://www.youtube.com/watch?v=m9sF4iSiE3g>

万が一の火災発生に備えて、消火栓器具ボックスを使用した初期消火を出来るようにしておくことが重要です。

■ <ご参考> 住宅用火災警報器の維持管理 (約 3 分)



<https://www.youtube.com/watch?v=5yVsaGh4biQ>

住宅用火災警報器について、電池の寿命の目安は約 10 年とされています。「いざ」というときに住宅用火災警報器がきちんと作動するよう、定期的な点検を行い、適切に交換を行なうことが重要です。

《お問合せ先》

自治会長 ()

○○ 自主防災だより

令和2年10月
○○ 自治会

台風・大雨・地震に備える「在宅避難」に必要なものは？ －携帯トイレの準備－

断水すれば、自宅のトイレは流せなくなる

バケツなどに水を入れて便器に流すという方法もあるが、
道路内の下水道の破損や、敷地内の排水管の破損の場合
トイレに水を流してはいけない。

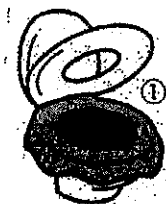
見た目で破損しているかわからない場合でも、
流れ方がいつもと違う場合や、下水道の使用に制限がかかっている場合、
トイレに水を流さないようにしましょう。

最悪の場合、トイレの水が逆流して、
部屋が汚水で水浸しになってしまいます。

携帯トイレは、1人35回分必要

携帯トイレは、通常の様式便器に便袋を取り付け、
吸水シートや凝固剤で排泄物を固める。

「1日5回(トイレ回数)×7日(備蓄日数)×家族の人数」分が目安。



◆携帯トイレの 使い方の例

①便座を上げて、便器
カバーをかぶせる



②便座の上から汚物
袋を取り付ける



③凝固剤を入れる

④用を足す

⑤汚物袋を取り外し、
しっかり縛って保管
する

災害時の甘く見てはいけないトイレ問題

トイレ問題 1

ライフラインのどれかひとつが欠けるだけで、水洗トイレは使えなくなる

貯めていたお風呂の水などで無理に流そうとすると、**上階の汚水が下階のトイレからあふれ出て、劣悪な衛生状態になる**ことも少なくありません。

災害が発生した直後は、水洗トイレを使用する前に、**停電・断水・給排水管の破損などの確認が必要**です。



災害時に困ったこと、第1位は「トイレ」

2016年4月14日・16日に大きな地震に襲われた熊本。

右のグラフは、避難所生活を送る方々に

「地震の直後、避難所であたが不便に思ったことは？」

というアンケートを実施した結果です。

7割近くの方が、避難生活で不便と感じたことに「トイレ」と回答しました。上下水道が完備された日本では、災害時に「トイレ問題」が起こるといふ想像が過ぎづらなのが現実です。そのため、災害時に備えたトイレ対策がなされていない自治体が多く、「トイレ問題」が起きた可能性が考えられます。

実際に、防災対策として食料品や水などの備蓄はしっかり行っている、災害時にどんな不便な問題が起こるか、ご存じない方が多いのではないのでしょうか。

Q 熊本地震(2016年4月14・16日)の直後(2~3日の間)に、避難所であたが不便に思ったことは？



仮設トイレが設置されたとしても、これらの問題が...

① 使う人数に比べて、設置されるトイレの数が少ない	② 不特定多数の利用や、水不足による不十分な掃除で、不衛生・感染症の恐れ
③ 車イス利用者や、高齢者には使いづらい	④ 汲み取り体制によっては使用可能な期間が限られる可能性

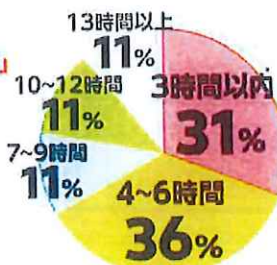
トイレ問題 2

トイレ環境が悪くなる=生命に関わる問題に発展する

右の円グラフは、「災害発生から何時間でトイレに行きたくなったのか」を調査した結果です。

「3時間以内」と答えた方は**31%**

災害時にトイレは非常に緊急性があるものだと考えられます。



災害時には、「食べる」「排泄する」という当たり前のことが難しくなる。**水や食料とともに、家庭でのトイレの備蓄が非常に大切**

(参考)

簡易トイレ用便袋 BOS 非常用トイレセット

簡易トイレ用便袋 BOS非常用トイレセット(50回分)

¥5,400(税別)

セット内容

- 汚物袋(650×800mm)60枚(便器カバー用…10枚、排泄用…50枚)
- 吸水シート(200×250mm)50枚※飛び跳ねにくくするため、シート状の凝固剤を採用しています。そのため吸水にやや時間がかかります。(吸水目安:約5分間で約400mlの水分を吸水(1枚))
- 使用後は固まるのでゴミとして廃棄できます。
- 驚異の防臭袋BOS 60枚(350×500mmマチ付)
- ※汚物袋入れるための袋です。BOSに入れることにより臭いも菌も閉じ込めます。

驚きの防臭力



自動車用バッテリー対応型コンパクト収納・省スペース備蓄・すばやく設置・いつでもグリーンにさわやか

トイパックⅡ Neo

¥175,000(税別)

- 消費電力/約55W●周波数/50/60HZ●電圧/DC12V
- 電源コードの種類/ACアダプタ2.5m、シガープラグコード10m、クランプ付中継コード●待機時消費電力/0.5W●本体寸法/幅435mm×奥行516mm×高さ290mm×座面高さ485mm●質量/約14.3kg



凝固剤を全て投入し、排泄をして下さい。 ※空袋はそのまま便器内に捨ててください。

NEW

トイパックⅡ用
消耗品SET(600回分)
¥47,100(税別)

オプション

- アシストフレーム ¥49,000(税別)
- サボ音 ¥12,000(税別)

簡易トイレ各種

災害用トイレセット「マイレット」

マイレットシリーズは、緊急災害用に開発した簡易トイレです。水を使わずに、既存のトイレ等で安心・安全にトイレ処理ができます。使い方は簡単。既存の便座に排便袋をかけ、排泄後に抗菌性凝固剤を振り掛けて固めれば、後は可燃ごみとして簡単に処分できます。

マイレットS-100(100回分) マイレットS-500(500回分)

¥15,000(税別)

- サイズ/W240×D170×H180mm
- 重量/約2.4kg

商品内容/抗菌性凝固剤(7g):100袋、排便袋(PE製黒):100袋、大型外袋:10袋、使用方法ポスター:1枚

¥66,000(税別)

- サイズ/W550×D300×H200mm
- 重量/約12kg



保存期限 10年

抗菌

消臭

可燃ごみ

- ◆汚物を素早く固めてニオイも閉じ込める
- ◆安全で安心な優れた抗菌性凝固剤を使用
- ◆長期10年保存可能

- ◆コンパクトサイズで省スペース備蓄
- ◆処理後は、袋ごと可燃ゴミとして処分(各自治体の条例に従ってください)

水がなくてもスグつかえる災害用トイレセット 10回分

水がなくてもスグつかえる災害用トイレセット 配布しやすい5回分パック×60個入り

NEW

マイレット mini-10

¥1,800(税別)

商品内容/抗菌性凝固剤(7g)×10袋、排便袋(PE製黒)×10袋、持ち運び袋(PE製白)×10袋、ポケットティッシュ×2個



NEW

マイレット P-300

¥46,500(税別)

5回分パック×60個入り
商品内容/抗菌性凝固剤(7g)×5袋、排便袋(PE製黒)×5袋、持ち運び袋(PE製白)×2袋



プラスチックダンボール製組立式トイレ

- ◆全ての断面がウェーブカット加工の安心・安全設計
- ◆600kgの圧縮試験済み
- ◆プラスチックダンボール製で長期保管に最適



NEW

プラダントイレ

¥3,500(税別)

プラダントイレ×1個、組立説明書×1枚

マイレット WR-100 はマイレットの災害用トイレ処理セットに、水没した場合でも使える耐水機能をプラスした超耐水災害用トイレセットです。水害が多い地域や湿気の多い場所での備蓄を考慮し、水漏れや湿気に強い仕様となっています。

水没・湿気に強い!

水没1週間後でも耐荷重30kg

100回分



アルミ真空パック2包内訳

- ・凝固剤100個パック
- ・排便袋100袋
- ・大型外袋10袋パック
- ・使用方法ポスター1枚

アルミ真空パックして梱包されています。



マイレット仕様

アルミ真空パック開封時

排便袋(PE製) 大型外袋(PE製)



抗菌性凝固剤(1包7g)

マイレット「WR-100」

¥18,500(税別)

●サイズ/約W250×D190×H185mm
商品内容/抗菌性凝固剤(7g)100個パック、排便袋(PE製黒)100袋、大型外袋10袋パック、使用方法ポスター1枚

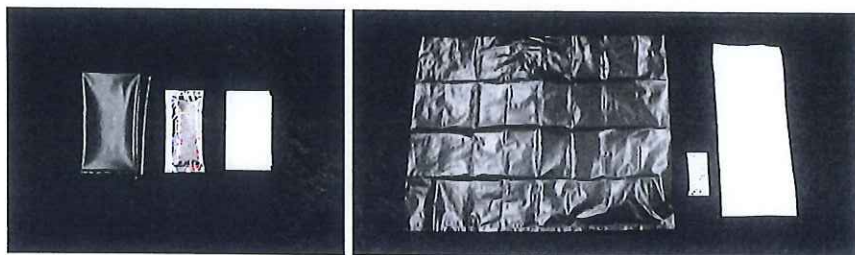
100円ショップで揃う 防災グッズ

水がなくても安心!

『緊急簡易トイレ 1回分』

断水や停電によりトイレの水が使えない時に用を済ますことができる緊急簡易型のトイレ。汚物袋1枚、処理袋1枚、凝固剤1個が入っている。使い方は①汚物袋を便器と便座の内側に挟み、②便座をのせ、しっかりと汚物袋を固定、③使用後は消臭剤入りの凝固剤をかけると3分ほどで固まり、臭いもシャットアウト。④処理袋に入れて廃棄する。汚物袋は厚手仕様で漏れる心配もない。

汚物袋サイズ 65×50cm



トイレがないところでは、バケツを代用してもOK!魔法の粉で、汚物をすぐ固めてくれる。

最大5Lを持ち運べる

『非常用給水バッグ』

災害時の水の運搬に利用する給水バッグ。水量がわかるメモリ付きで最大水位は5L、持ちやすい手提げ穴も付いている。大人や子供、高齢者など運ぶ人に合わせて調整可能。また、ダブルジッパー式で水漏れしにくい構造もポイント。普段はコンパクトにたためるため、給水タンクのように場所をとらず保管可能な点が◎

サイズ 30×43.5cm

最大水位 5L



華奢な女性でも5Lは持てる重さ。持ち手は意外としっかりめ。

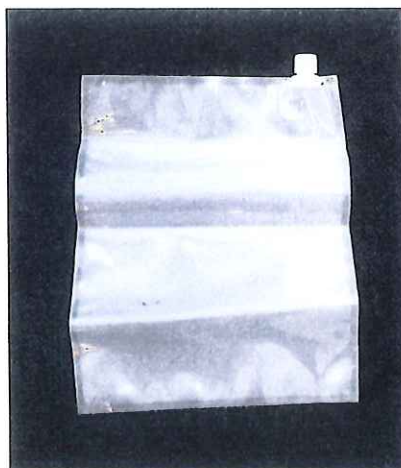
水をいれるだけ!簡単浸水対策

『水のう袋』

水を入れるだけの簡単水のう袋。しっかりした厚手の袋で漏れの心配もない。完全に止水するものではないが、浸水を遅らせたり汚泥の被害を軽減させるほか、排水の誘導といった緊急時の処置として活用することができる。トイレや浴室の排水を塞いで逆流防止としての利用も。台風の地域では重し代わりに利用するなど使い方もいろいろ。撤去の際は水を抜くだけなので後片付けも簡単。

使用前サイズ 37×50cm

水抜き時重量 12.5kg



使用の際は2/3程度を目安に水を入れ、中の空気を抜くのがポイント。隙間をキレイに埋め止水効果アップ。

持つ、置く、吊るす 3WAYを実現

『LED懐中電灯』

懐中電灯にもランタンにもなるLED懐中電灯。スイッチの上下でランタンと懐中電灯と切り替えが可能で、中心にすると消灯する。ストラップが付いているので吊るしての活用も。単三電池1個で点灯でき、非常にコンパクトで手軽に持ち出せる。

サイズ 約10.3×4.5cm

手動発電タイプのLEDライトも!

ボタン電池2個使用し、LEDライトを点灯。電池交換はできず使い捨てタイプとなるが、電池がなくても、手動で発電してライトを点灯でき、非常時に活用することができる。



停電時も太陽電池で繰り返し充電可能

『ソーラー充電モバイルバッテリー』※1,100円(税込)

停電時も繰り返し充電することができる太陽電池付きモバイルバッテリー。USB-Aポートが2つ搭載され、同時にスマホ2台を充電することができる。目玉となるソーラー充電だが「低速となるため、あくまで補助機能として使用ください」との記載があるものの、(日照の具合にもよるが)半日も放置していれば満タンまで蓄電され、補助的に使うにしても十分な機能となっている。また、ソーラー充電の機能だけでなく、高輝度LEDライトが2個搭載されており、災害時にマルチに活用できるところもポイントである。

- 容量 18.5Wh
- 使用回数 約500回
- サイズ 8×1.5×8cm
- 充電時間 3時間(コンセントから本体に蓄電した場合)



緑色LEDランプ点灯はソーラー充電開始のサイン。

電源を長押しすると、LEDが点灯。非常に明るい。

★停電時の知恵 ①ソーラーガーデンライトの有効活用

トイレ、階段、台所で使用する。

②冷蔵庫の有効活用

冷凍室の保冷剤、冷凍食品を冷蔵庫室の上部に移動する。—

防寒用の簡易アルミ寝袋

『防寒具ツド!!』※330円(税込)

体温低下を防ぐ保温性に優れた非常用アルミ寝袋。200×100cmサイズあるので、成人一人が寝られるサイズで、使わないときは折りたたんでポケットサイズに。非常に軽量・コンパクトで高い携帯性があるため、持ち出せる荷物の量が限られる避難時に重宝できそう。破けにくいように四隅をテーピング加工している。

- サイズ 200×100cm
- 重量 78g



保温効果は十分。薄手なので、段ボールなどクッション性のあるものを下に敷くと快適度アップ。

断水時もしっかり髪を洗える?!

『手袋型ハンディシャンプー』

入浴できない非常時に、水を使わずに利用できるシャンプーシート。手袋型のシートで、不織布のような丈夫な素材で、きめ細かくふんわり且つ、しっとりした感触。手袋は2層になっており、頭皮までしっかりふき取ることができる。電子レンジで温めも可能。シャンプーのほか、身体ふき用の手袋型シートもある。

【内容量】 2枚



ロングヘアでも髪全体と頭皮をしっかりとふき取れ、フローラルの香りでスーッとした清涼感。

水なしスッキリ!簡単歯みがき

『落ち落ちV歯みがきシート』

避難所生活などで歯ブラシがない場合に使えるオーラルケアシート。災害時に口の中を清潔に保つことができないと、特に高齢者などは口の菌でも肺炎など身体に悪影響を及ぼす可能性があるため、揃えておきたいグッズの一つ。歯ブラシや水を使わずに、指に巻き付けて拭くだけでマイクロファイバーが歯・舌の汚れを取り清潔に保つことができる。

【サイズ】 幅16×7cm

【容量】 10枚入



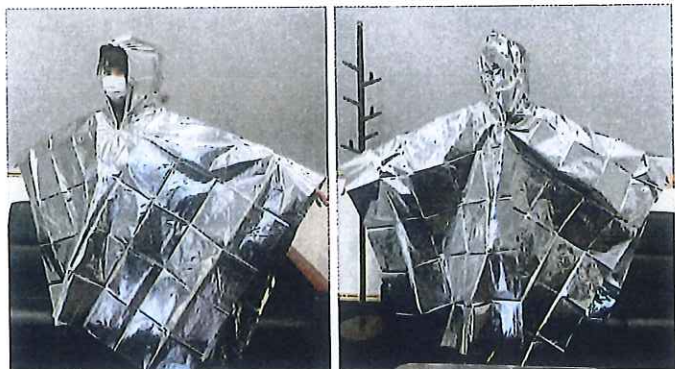
クールミントの香りで、スッキリ。歯の汚れを落とし、息もリフレッシュ。

ちょっとした防寒、防水、防風に

『保温アルミポンチョ』

急な天候の変化や気温の低下など、雨や風から体温を守ってくれるポンチョタイプのアルミシート。横幅138cmの長さだが、たたんでしまえばポケットにも入る非常に軽量かつコンパクトなサイズで邪魔にならない。フリーサイズのため成人男性でも十分な大きさで、頭からお尻まですっぽり隠れる。うれしいフード付き。

【サイズ】 横幅138cm×前丈90cm×後丈97cm



薄手だが、しっかりと身体を包み込み、1枚あるだけでも保温性があり暖かさを感じることができる。

災害時に必要なものを備えよう

災害から避難するときですぐ持ち出す「非常持出品」と、復旧するまでの数日間を支える「備蓄品」を分けて準備し、要支援者や家族にも備えておいてもらいましょう。

●非常持出品の例

貴重品	現金(公衆電話用の10円玉は多めに)、テレホンカード、預貯金通帳、印かん、健康保険証など。
懐中電灯	できれば1人1個ずつ。予備の電池も。ヘッドランプ型が理想。
携帯ラジオ	手動充電、携帯電話充電機能などがついた多機能型が便利。
スマートフォン・携帯電話	モバイルバッテリー(電池式など)、ソーラー型充電器が便利。
救急医薬品	消毒薬、鎮痛剤、体温計、ばんそうこう、持病のある人は常備薬など。
衛生用品	アルコール消毒液、除菌シート、ウエットティッシュ、マスク、ビニール手袋など。
水・非常食	ペットボトル入り飲料水、乾パン、缶詰、チョコレート、火を通さずに食べられるものなど。
その他	ヘルメット、上着、下着、スリッパ、ライター、軍手、ナイフ、ティッシュ、メモ用紙、筆記用具など。



●備蓄品の例

水・非常食	飲料水(1人1日3リットルを目安に)、乾パン、缶詰、レトルト食品、インスタント食品、ドライフード、切り餅、菓子類、みそ、調味料、食器など。
コンロ	卓上コンロや携帯コンロ。予備のガスボンベや固形燃料も。
寝具・防寒具	毛布、寝袋、防寒シート、使い捨てカイロなど。
照明器具	LEDランタンなど卓上でも使用できるもの。予備の電池も。
衛生用品	アルコール消毒液、除菌シート、ウエットティッシュ、マスク、せっけん、歯ブラシ、タオル、トイレトーパー、生理用品、ビニール手袋など。
工具	はさみ、のこぎり、ロープ、バール、ジャッキ、スコップなど。



個々の事情で用意したいもの(例)

◎高齢者・障がい者全般

大人用おむつ、やわらかい非常食、入れ歯(洗浄剤も)、障害者手帳、補聴器(予備電池も)、持病の薬、眼鏡・コンタクト(予備含む)、ポータブルトイレ、特別な医療(補助)用具が必要な場合は予備も用意する

◎聴覚・言語障がい者(児)

補聴器、ペンと筆談用紙、会話カード、ホイッスル、視覚情報が入手できる機器(FM文字放送対応ラジオ、携帯小型テレビ、携帯用FAXなど)

◎視覚障がい者(児)

白杖、点字盤、音声情報が入手できる機器(携帯ラジオ、携帯電話など)、盲導犬を連れている人は、ドッグフードや水など

◎肢体不自由者(児)

予備の車いす(電動車いすの場合は予備のバッテリーなども)



MEMO

※お気づきになられたことをお書きください。

Lined area for writing notes, consisting of multiple horizontal dashed lines.